

ヲ流ルル水流、沼澤、水田、地物ノ景況等ニ關スルモノニシテ其兩岸高低ノ差アル時ハ高岸ニ位置スルモノ常ニ有利ノ形勢ヲ占メ得ヘシ即チ自己ヲ掩蔽シ敵ヲ展望スル自在ニシテ且射撃ノ效力ヲ發揚スルニ便ナリトス
以上ノ特性ハ戰鬪ニ方リ攻防兩者ニ左ノ如キ影響ヲ及ホスモノトス
防者ニ及ホス利害

- 一、敵ハ彼岸ヲ下ルニ際シ防者ノ目視及射撃ヲ免ルル能ハサルノミナラス再我岸ノ斜面ヲ上ルニ方リ高地攻撃ニ於ケル斜面攀登時ノ危害ヲ受ク
- 二、谷底ニハ通常水田、水流沼澤及泥濘地等アルヲ以テ攻者ノ運動ヲ阻害ス
- 三、側防ノ設備充分ナラサレハ死角ヲ生シ易シ
- 四、地形ニ依リ攻勢移轉ヲ困難ニス從テ攻者ノ迂回ヲ容易ニス
- 五、攻者歩砲ノ協同ヲ容易ニス

六、地形ニ依リ歩砲同線ノ害ヲ受クルコトアリ
攻者ノ利害ハ全ク相反ス

第二節 防禦

谷地ノ防禦ニアリテモ縁端及後退配備ノ二種アリト雖モ谷地ノ後退配備ハ攻者ノ爲メ對岸上ヨリ我狀況ヲ偵知セラルルノミナラス彼岸ヨリスル火力殊ニ砲兵火ノ爲メ我攻勢動作ヲ阻害セラルルコト多キヲ以テ地形縁端ノ配備ヲ許ササルカ或ハ攻勢ノ企圖ヲ有スル場合ニ於テ我岸ノ比高彼岸ニ比シ大ナル時等ノ外通常縁端ヲ占領スルモノトス此際斜面ノ脚若クハ谷底ニアル地物ヲ占領スルハ前進哨ノ弊害ニ陥ルヲ以テ唯岸上ヨリノ射撃困難ナル場合ニ限ルモノトス

谷地縁端ノ配備ハ高地ニ於ケル縁端防禦ノ要領ニ準シ死角及射撃シ得サル扇形地ヲ消滅シ且必要ノ地點ニ火力ヲ集中シ得ル如ク企畫スルヲ要

ス而シテ敵ノ對岸斜面ヲ降下スルニ際シ損害ヲ與フル如クスルハ谷地ニ於ケル防者ノ爲メ極メテ必要トスル所ナリト雖モ敵モ亦其始メ對岸高地上ヲ領有シアルヲ以テ豫メ之ニ對スルノ顧慮ヲ必要ナリトス

敵既ニ谷底ニ降下シ次テ斜面ヲ攀登スルニ際シテハ防者ハ通常攻勢移轉ノ機ヲ捉ヘ得ルモノトス

攻者若全力ヲ以テ正面ヨリ我ヲ攻撃スルコトナク其主力若クハ一部ヲ以テ迂回ヲ企圖シタル時ハ防者ハ其機ニ乘シ攻勢ニ轉スルヲ有利トス然レトモ攻者已ニ其主力ヲ以テ迂回ヲ爲スカ如キ狀況ニ於テハ防者ノ正面出撃モ亦通常困難ナルヲ以テ此際ハ我モ亦一部ヲ以テ正面ノ敵ニ對セシメ主力ヲ以テ迂回セル敵主力ニ對シ戰鬪ヲ求ムルヲ自然トス而シテ斯ノ如キ際ニハ既ニ谷地戰ノ特性ヲ脱セルモノトス

戰例

明治三十七年六月十五日得利寺附近ノ戰鬪ニ於テ第三師團右翼隊

ハ當日露軍主力ノ攻撃ニ對シ尖々山附近ヨリ以東ノ高地脈ヲ占領シテ防勢ニ立ツノ已ムヲ得サルニ至リシカ午後一時半過高家勾南方ノ敵砲兵我砲火ノ爲メ北方ニ退却スルニ至リシモ同時新ナル敵ノ砲兵約八門山砲拉子溝方向ヨリ小寺廟西側谷地ニ下リ前進スルヲ見我歩砲兵ハ之ヲ射撃シテ殆ト半數ヲ顛覆シ敵ハ僅ニ四門ヲ以テ小寺廟西側谷地ニ放列ヲ布キ我ニ向ヒ亂射セリ次テ敵歩兵對岸斜面ヲ下リ瓦房窩堡南方ニ向ヒ前進セシヲ以テ全力ヲ盡シテ之ヲ猛射セリ然ルニ朝來上下瓦房窩堡附近ニ集合シアリシ敵歩兵ノ一部ハ此時退却セシモ其約一大隊半ハ依然死角及附近ノ樹林中ニ陰匿シアリテ午後三時三十分斜面ヲ攀登シテ我陣地ニ向ヒ銃劍ヲ揮ヒ突入シ來レリ是ニ於テ我左翼ノ歩兵ハ鈴木少佐ノ指揮ヲ以テ之ヲ反撃シ中央隊タル第八聯隊第一大隊ト共ニ或ハ銃劍ヲ投シ或ハ石ヲ投シ混亂格鬪ノ後之ヲ殲滅セリ

第三 攻 擊

谷地ノ縁端ヲ占領セル敵ニ對シテハ攻者ハ其攻撃ニ方リ「高地ノ特性」ノ部ニ述ヘシカ如キ不利ヲ免レサルヲ以テ先ツ我岸ニ於ケル諸準備ヲ充分ニシ且岸上ヨリスル猛烈ナル掩護射撃ヲ以テ谷地ノ通過ヲ容易ナラシメサルヘカラス

晝間我斜面ヲ下ラサルヘカラサル時ハ敵ノ射撃ヲ受ケ最モ危険ナルヲ以テ充分ナル注意ヲ緊要ナリトス之カ爲メ地區、地物ヲ利用スルハ勿論若散開シタル時ハ數群ニ分チ相異ナル地點ヨリ逐次降下セシムルヲ要ス若地形ノ關係上同一ノ地點ヨリ進出セサルヘカラサル時ハ成ル可ク小部隊ニ區分シテ時間ヲ置キ逐次ニ下ルヲ利トス其隊多數ナラサルカ若クハ從來其位置ヲ全ク敵ニ祕シ得タル時ハ同時ニ進出スルヲ可トス斯ノ如キハ一見危険ナル如キモ斷行セシ意外ニ損害少キモノナルハ日露戰ノ實驗ニ

徴シ明カナリトス夜暗ヲ利用シ我斜面ヲ降下シ得ハ極メテ有利ニシテ爾後引續キ夜襲ヲ決行スヘキヤ或ハ天明ト共ニ突撃スヘキヤハ狀況ニ關スルモノトス

谷地ノ幅員歩兵戰ヲ交エ得サルカ如キ大ナルモノニアリテハ谷底ハ往々水流ニ沿ヒ獨立或ハ集團家屋、村落等ノ掩蔽ヲ有スルモノナリ斯ノ如キ土地ニ於テハ攻者ハ先ツ之ヲ占領シ爾後ノ攻撃前進ヲ容易ニスルヲ要ス防者若一部ヲ以テ谷内ニ於ケル此等掩蔽物ヲ占領スル時ハ攻者ハ先ツ之ヲ本陣地内ニ擊退スルヲ要スヘク防者其主力ヲ以テ之ヲ占領スル時ハ歩兵戰ノ大半ハ低所ニ起リ其間彼我ノ砲兵ハ高地ニ於テ互ニ戰鬪ニ參與スルニ至ルヘシ

敵岸ニ於ケル斜面ノ攀登及之カ奪取ハ高地戰ノ要領ニ準スルモノトス谷地ノ狀況正面ヨリスル攻撃極メテ困難ナル時ハ攻者ハ一部ヲ以テ對岸ノ敵ニ對セシメ主力ヲ以テ遠ク迂回シ敵ノ高地上ニ現ハレ其側面ニ迫

ルヲ要ス此際正面ニ殘置セル攻者ノ部隊ハ防者ノ正面出擊ニ對抗スルハ勿論爲シ得レハ其火力ヲ以テ彼岸ニ於ケル攻者主力ノ戰鬪ヲ容易ナラシメサルヘカラス

防者若谷地ノ縁端ヲ捨テ後退シテ陣地ヲ占領スル時ハ其攻撃ハ高地後退配備ノモノニ準スルモノトス但此際ニ於テハ攻者ハ其岸上ヨリ豫メ敵ノ狀況ヲ展望シ且其火力ヲ以テ高地縁端ニ進出セシ友軍ヲ援助シ得ルノ利ヲ有ス

第四章 隘路戰

第一節 戰術上隘路ノ觀察

戰術上隘路トハ軍隊廣正面ヲ以テ自在ニ行動シ得サル地部ノ謂ヒニシテ即チ橋梁ヲ始メ山頸、水田、沼澤等ヲ通スル道路(兩側地區ヲモ含ム)ヲ謂フ隘路ノ價值ハ主トシテ其長短、廣狹及兩側ノ地形ニ關スルモノニシテ隘

路ノ前後兩端互ニ射擊ヲ以テ對戰シ得ルカ如キ短隘路ニアリテハ優勢ナル攻者ハ能ク火力ヲ以テ對岸ノ敵ヲ壓倒スルノ利ヲ有スト雖モ然ラサルモノニアリテハ特ニ攻者ノ兵力優勢ナルモ其威力ヲ發揚スルニ由ナク寡弱ナル防者ノ爲メ阻止セラレ易キモノトス

又隘路兩側ノ地形部隊ノ通過ヲ許スト至ク否ラサルトニ依リ著シク其價值ヲ異ニスルモノニシテ例ヘハ山頸中ヲ通スル道路ニシテ其兩側路外ノ地區ハ歩兵ノ外至ク砲兵、騎兵等ノ通過ヲ許ササル時ハ此等兵種ノ爲メ極メテ厭フヘキ隘路トナルモ歩兵ノ爲メニハ特ニ大ナル支障ナキカ如シ之ニ反シ湖水、池沼等ヲ通スル土堤、通過不可能ナル河川ノ橋梁等ノ如キハ等シク諸兵種ノ通過ヲ困難ニシ純然タル隘路ヲ成形スヘキモノトス

其他隘路ノ廣狹ハ之ヲ通過スヘキ軍隊ノ大小ト相俟テ其價值ヲ甚クシク増減スルモノニシテ例ヘハ其幅員一吉米ノ隘路ハ歩兵一中隊ノ爲メニハ戰術上毫モ隘路ノ意義ヲ爲サスト雖モ師團ノ爲メニハ充分ナル隘路タ

ルヲ失ハサルカ如シ

之ヲ要スルニ隘路ハ其通過軍隊ヲシテ狭小ナル正面ヲ採ラサルヘカラ
サラシメ從テ其通過ニ多クノ時間ヲ費シ且動モスレハ混亂ト行進遲滯ト
ヲ惹起セシムルノミナラス展開亦頗ル困難地形ニ依リテハ全ク不可能ノ
モノアリナルヲ以テ逐次ニ兵力ヲ使用スルノ不利ヲ得セシメ敵ニ各個擊
破ノ好機ヲ與フルコト大ナルモノトス而シテ此不利ハ隘路ノ長サ大ナル
ト其幅ノ小ナルトニ從ヒ益々増大スルモノナリ

第二節 隘路前ノ攻防

第一 攻撃防禦

隘路前ニ於ケル攻防ノ一般ニ關シテハ前已ニ河川戰鬪ノ部ニ於テ詳述
セルヲ以テ今又之ヲ贅セス直ニ前衛及後衛ノ戰鬪ニ就キ述フル所アラン
トス

第二 隘路前ニ於ケル前衛、後衛ノ

戰鬪ニ就テ

一、前衛先遣支隊等ヲ含ムノ戰鬪

隘路前ニ於ケル前衛先遣支隊等ノ戰鬪ハ後續部隊ノ爲メ隘路進出ヲ
掩護スル場合ニ惹起セラルルモノニシテ其本來ノ戰鬪目的ハ全ク一ノ
持久戰ニ過キス從テ其行動ハ守勢的ナルヲ常トシ多クハ陣地ノ占領ニ
依リ時間ノ餘裕ヲ得ヘシト雖モ狀況之ヲ要スレハ斷乎タル攻勢ニ出テ
其任勞ノ速成ヲ圖ラサルヘカラサルモノトス

隘路前ニ於ケル前衛陣地ニ具備スヘキ性能概シテ左ノ如シ

- 一、後續部隊ノ爲メ展開ノ餘地ヲ存スルコト
- 二、後續部隊ノ隘路通過中敵火ノ損害ヲ受ケシメサルコト
- 三、我部隊ヲ以テ隘路ヲ閉塞セサルコト

モ主トシテ敵ノ此企圖ニ對シ使用セラレサルヘカラス

第三節 隘路内ノ攻防

隘路内ノ戰鬪ハ多ク山地ヲ通スル長隘路ニ起ルモノニシテ稀ニ大水田、沼澤等ヲ通スル長キ堤塘、道路内ニ發生スルコトアルモ此等ハ眞ニ一小部隊ノ衝突ニ過サルモノトス是レ彼我共ニ斯ル隘路内ニ於テ豫メ衝突ヲ豫期スルカ如キ時ハ最初ヨリ多クノ兵力ヲ使用セサル如ク計畫スレハナリ

第一 防禦

隘路内ノ防禦ハ多ク持久ノ目的ヲ有スルモノニシテ亦能ク歩々ノ抵抗ヲ爲シ得ルモノトス

抑、隘路内ノ布陣ハ隘路後ニ於ケル布陣ノ利ト隘路前ニ於ケル布陣ノ不利ト併有スルモノニシテ概シテ攻者ノ攻撃ヲ困難ナラシメ得ヘシト雖

モ亦之ニ伴フノ弊害ヲ免レサルモノトス故ニ狀況斯ノ如キ布陣ヲ必要トスル場合ニアリテハ勉メテ左ニ掲クル性能ヲ有スル地點ヲ占領スルヲ要ス

隘路内ノ防禦陣地ニ具備スヘキ要件左ノ如シ

- 一、廣濶ナル正面ヲ以テ敵ノ狹正面ニ對シ得ルコト
- 二、展望自在、射界廣濶ニシテ敵ノ瞰制ヲ受ケサルヲ要ス
- 三、歩砲殊ニ砲兵ヲ以テ敵ノ行進路ヲ縱射シ得ルコト
- 四、攻者ノ迂回困難ナルコト(目的ニ依リ必シモ不可能ナルヲ要セス)
- 五、我退却ハ比較的容易ナルコト

之カ爲メ山地隘路ニアリテハ通常兩側ノ高地ヲ占領スルヲ有利トシ其砲兵ハ努メテ敵ノ隘路通過ヲ縱射シ得ル如ク配備スルヲ要ス又爲シ得ル限リ我有効射界内ニ阻絶、破壞等ノ障礙ヲ構成シ敵ノ接近ヲ困難ナラシムルヲ圖ルヘシ

若敵ノ爲メ迂回ニ利用シ得ヘキ道路等アル時ハ嚴ニ之ヲ監視スルコト必要ニシテ大行李輜重ノ如キハ遠ク之ヲ後退セシムルヲ可トス
防者敵ノ正面攻撃ニ對シテハ頑強ニ抵抗シ得ヘシト雖モ他ノ隘路ヨリスル迂回ニ對シテハ速ニ之ヲ察知シ適宜正面ニ突出スヘキカ若クハ退却スヘキカラ決セサレハ危險ナリトス

第二 攻撃

隘路内ニアル防者ニ對シ攻撃ノ手段左ノ如シ

- 一、一翼攻撃
- 二、中央突破
- 三、迂回

一、一翼攻撃

隘路内ノ防禦ハ宛カモ門戸ヲ閉サスカ如キモノニシテ其兩側高

地ハ門柱ナリ故ニ其一方ノ柱ヲ倒スコトヲ得ハ門戸ハ自ラ開放セラルルモノトス是レ防禦ニ於テ特ニ高地ノ守備ヲ嚴ニシ攻者モ亦其一翼ヲ奪フコトニカムル所以ナリトス若此際兩側ノ高地共之ヲ奪取セントセハ自ラ兵力分離ノ害ニ陥ルモノニシテ其隘路比較的廣キ時ハ更ニ甚シ而シテ一度一側ニ分離シタルモノヲ更ニ他ノ一側ニ使用セシムル如キハ通常困難ニシテ殊ニ多クハ砲兵ノ爲メニ其隘路ヲ縱斷セラルル爲メニ愈々多クノ時間ヲ要スルモノナリ故ニ通常一側ニ對シテハ守勢ヲ取り他ノ一側ニ對シ成ル可ク多クノ兵力ヲ使用スルヲ緊要ナリトス

而シテ何レノ翼側ヲ攻撃點ニ選定スヘキカハ固ヨリ戰術上ノ要旨ニ依ルヘシト雖モ茲ニ注意スヘキハ隘路内ノ抵抗ハ頗ル韌強ノ性質ヲ帶フルモノニシテ若現在陣地ノ抵抗ヲ危險ニ感スレハ逐次退却シテ第二第三ノ抵抗ヲ爲シ得ヘシ故ニ攻撃翼ハ一度之ヲ奪取

セハ豫定ノ前進方向ヲ維持シツツ成ル可ク其側方ノ地ヲ前進シ絶エス防者ノ一側ヲ脅威シ之ヲシテ已ムヲ得ス歩々ノ抵抗ヲ斷念セムル如クスルコト是ナリ

二、中央突破

中央突破ニ關シテハ已ニ第一篇攻撃ノ部ニ於テ詳述シタルカ如ク隘路内ノ防禦ニ於テ敵ノ平坦地ニ於ケル防備極メテ薄弱ナル時及敵ノ正面カ比較的廣大ニシテ且長隘路内ニアル時殊ニ兩側高地ノ標高比較的大ナル場合等ニ於テ敵ノ素質劣等ナルカ如キ時ハ採用シテ極メテ痛快ナル攻撃法ナリトス

元來隘路内ノ防禦ニ於テハ主トシテ兩側高地ヲ守備スヘキモノナルコト前述ノ如キヲ以テ隘路ノ幅員大ナル時ハ自ラ中央部ノ防禦ヲ薄弱ナラシムルモノニシテ守備ノ兵力過少ナル場合ニ於テ益然リトス故ニ攻者ノ中央突撃部隊ハ比較的其兩側高地ヨリスル射

撃ノ威力ヲ免レツツ突破ノ餘威ヲ以テ深ク隘路内ニ進入スルヲ得ルヲ以テ兩側高地ノ敵ハ自ラ潰走ニ陥ルヘシト雖モ若第一線突破ノ後狭小ノ地區ニ遇ヘハ敵ハ更ニ之ニ依リテ頑強ノ抵抗ヲ爲シ得ル爲メ此際突撃部隊ハ兩側高地ノ敵ノ爲メ全ク包圍セラレ悲惨ナル損害ヲ蒙ル不利ヲ免レサルヘシ

現今火器ノ進歩ハ此種攻撃ヲシテ益々困難ナラシムルニ至リシコト最近歐洲戰ノ明示スル所ナリトス

三、迂回

前述ノ如ク隘路ノ抵抗ハ極メテ靱軟ノ性質ヲ帶ヒ隘路長キニ從ヒ益々其度ヲ増加スルヲ以テ若兩側ノ地域前進ニ便ナラサル時ハ寧ロ主力ヲ以テ一側ヲ迂回スルヲ可トス然ル時ハ防者ハ其迂回ニ對スル爲メ已ムヲ得ス正面ニ突出スルカ若クハ退却セサルヘカラサルモ前者ハ攻者ノ正面攻撃困難ナルト同様防者ノ出撃モ亦至難ナ

ルヲ以テ多クハ退却ノ餘儀ナキニ至ルモノトス隘路内ノ防禦多クハ持久ナルニ於テ益然リ

然レトモ攻者迂回ニ際シテハ能ク全般ノ狀況ニ鑑ミ輕忽ナルヘカラス是レ迂回ハ通常多クノ時間ヲ要スル爲メ自ラ防者ノ目的即チ持久ノ企望ヲ達セシメ得ヘク殊ニ迂回ノ途中ニ於テ小抵抗ヲ試ミラルル時ハ更ニ多クノ時間ヲ要スルノミナラス漸ク迂回ノ目的ヲ達スルモ通常更ニ新陣地ニ衝突スルコトナリ其攻撃ハ更ニ最初ノモノニ比シ困難ナルニ至レハナリ

其迂回ノ方向敵ノ現防禦陣地ノ直後ナル時ニ於テ殊ニ然リトス故ニ若迂回ヲ實施スル時ハ之ヲ許サハ寧ロ斷然隘路ヲ進出シテ防者後方ノ隘路口ヲ脅威スルカ少クモ防者ヲシテ現陣地ヲ撤シテ成ル可ク遠ク引退セシムルヲ要ス

又防者ニ對シテハ迂回運動ヲ掩護スル爲メ一部隊ヲ對セシムル

ヲ要スト雖モ其兵力ハ成ル可ク減少セサルヘカラス否ラサレハ終ニ兵力分離ノ害ニ陥ルヘシ又一度迂回ヲ開始セシ後ト雖モ狀況地形ニ依リテハ防者ニ對シ一部ヲ殘置スルヲ要スルコト多シ此場合ニハ通常側衛ノ駐止掩護ノ要領ニ準シ機ヲ見テ主力ニ合セシムルヲ可トス遠ク迂回スル場合殊ニ然リ又一部ヲ以テ迂回スル時ハ自ラ兵力分離ノ害ニ陥ラサル如ク直ニ本戦ニ影響ヲ及ホシ得ル程度ニ於テ近距離ナルヲ要ス

第四節 隘路後ノ攻防

第一 防禦

隘路後方ノ布陣ニ於テ防者ノ利トスル所實ニ左ノ如シ

一、攻者ハ一條ノ通路ニ依ルニアラサレハ前進スルヲ得サルヲ以テ攻者ノ主利即チ隨意ニ攻撃點ヲ選定スルノ利ヲ消滅セシム

二、防者ハ廣正面ヲ以テ攻者ノ隘路通過ニ際シ其正面ヲ減縮シタルモノニ對シ猛烈ニ射撃ヲ集中スルヲ得

三、攻者假令隘路ヲ通過シ其兵力ヲ展開シ終ルモ尙ホ隘路ヲ背ニシテ戰フノ不利アリ

然レトモ又次ノ不利ヲ免レサルモノトス

一、攻勢移轉困難

二、追撃困難ニシテ動モスレハ敵ノ一部ノ爲メ阻止セララル

故ニ防者ハ其戰鬪目的ニ依リ隘路ノ利用即チ直接配備ヲ爲スヘキカ若クハ後退配備ヲ爲スヘキカヲ決定セサルヘカラス

一、直接配備

隘路後方ノ直接配備ニ於テハ防者ハ隘路殊ニ其出口ヲ良ク射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領スヘシ又遠ク隘路前ノ地點ヲ射撃スルヲ得ハ敵ヲシテ早ク其兵ヲ展開セサルヲ得サラシメ或ハ敵ノ準備運動

ヲ妨害シ得ルノ利アリト雖モ妄ニ隘路ノ前面ニアル優勢ナル敵ト射撃ヲ交フル時ハ徒ニ損害ヲ受ルノミナルヲ以テ成ル可ク之ヲ避ケサルヘカラス殊ニ砲兵ヲ然リトス蓋シ防者ノ肝要ナル時機ハ敵ノ隘路ヲ通過シ來ル時ナルヲ以テ此際射撃ヲ熾盛ニシ攻者ノ未タ我岸ニ達セサル前ニ於テ之ヲ撃退スルコト必要ナレハナリ機關銃ハ此目的ヲ達スル爲メ最モ有利ニ使用セララルモノトス

山地隘路ニアリテ隘路口兩側ノ高地幾分ニテモ部隊ノ運用ヲ許スカ如キ場合ニアリテハ敵ノ一部タリトモ同高地ヲ占領スル時ハ防者ノ配備ハ直ニ敵ノ爲メ瞰制セラレ持久ノ目的ヲ達シ得サルヲ以テ斯ノ如キ隘路ニアリテハ直接隘路口ノ外其兩側高地ヲ守備スルヲ要ス

攻者ノ迂回ニ對シ比隣隘路ヲ警戒スルハ河川防禦ト異ナルコトナシ

二、後退配備

隘路後方ノ後退配備ハ其目的決戰ニ存スルモノニシテ陣地ノ占領攻勢移轉ノ時機等概シテ河川後退配備ノ要領ニ準スルモノトス但此際ニアリテモ隘路口附近ノ高地攻者ノ爲メ其進出ノ據點トナルカ如キ地形ナル時ハ其攻勢ハ通常成立セサルモノトス

第二 攻撃

隘路ヲ通過シテ行フ攻撃ハ甚タ困難ナリ故ニ攻者ハ夜暗或ハ濃霧ニ乘シ不意ニ敵ヲ急襲スルヲ可トス而シテ之カ攻撃法ハ敵カ直接配備ヲ爲シアルカ或ハ後退配備ニアルカニ從ヒ異ニスト雖モ要ハ河川ノ攻撃ニ準スヘキモノナルヲ以テ特ニ茲ニ再說セス

第五章 森林及住民地ノ戰鬪

第一節 森林戰

第一 森林ノ戰術上ニ及ホス價值

森林ハ其位置ノ大小形狀疎密通過ノ難易樹木ノ種類等ニ依リ著シク戰術上ノ價值ヲ異ニスルモノニシテ今其大要ヲ述フレハ左ノ如シ

一、位置

森林陣地ノ前方ニアル時ハ防者ハ之ニ依リテ展望射界ヲ妨害セラレ攻者ヲシテ掩蔽接近ノ便ト其企圖ヲ秘匿スルノ利益トヲ併有セシムルモノトス而シテ其程度ハ敵ノ我ニ蔭蔽シ得ルノ度ト其通過ノ難易ニ依リ異ナルモノニシテ若運動通視共ニ困難ナルカ如キ森林ナル時ハ攻者ハ爲メニ其秩序ト連繫ヲ缺キ却テ防者ヲシテ之ニ乘セシム

ルノ機會ヲ與フルモノトス
陣地ノ正面ニ點在スル森林ハ防者ノ爲メ有利ノ支撐點ヲ成形スルモノニシテ之ヲ堅固ニ編成シテ兵力ヲ節約スルノミナラス後方部隊ノ掩蔽ニ便ナリトス

森林陣地ノ側方ニ在ル時ハ守者之ヲ守備シ得レハ以テ翼ノ據點ト爲シ得ヘキモ然ラサル場合ニ於テハ攻者ハ之ヲ利用シテ掩蔽接近シ直ニ防者ノ翼側ニ迫リ得ヘシ但シ森林廣大ニシテ其性質亦全ク兵力ノ使用ヲ許ササル時ハ防者ハ却テ之ヲ障礙トシテ翼ヲ依托スルヲ得ヘシ

森林陣地ノ後方ニアル時ハ之ニ依リ防者ハ其後方部隊及運動ヲ遮蔽シ得ヘク又退却ニ方リテハ之ニ依リ收容ヲ便ナラシムルノミナラス速ニ敵ト離隔スルヲ得ヘシ其内部ニ地障、複廓等アル時ハ更ニ之ニ依リ歩々ノ抵抗ヲ爲シ又要スレハ恢復攻撃ノ據點ニ利用スルヲ得ヘシ

シ

然レトモ此等森林ニシテ全ク諸兵ノ通過ヲ許ササルニ於テハ其防者ニ及ホス不利ハ恰モ隘路前ニ於ケル防禦ト同様ナリトス

二、大 小

大森林ハ騎兵及砲兵ノ動作ヲ制限シ且指揮ニ不便ナリ殊ニ林内全ク通過ヲ許ササルモノニアリテハ戰術上ノ利點極メテ少ク唯僅ニ翼側ノ依托ヲ爲シ得ルニ過キサレモノトス

林内ノ狀況運動容易ナル大森林ニアリテモ守者ハ全縁ヲ占領セサレハ其守備セサル側方ノ地ヨリ攻者ノ侵入ヲ受クルヲ以テ堅固ナル防禦ニ適セス唯一時林縁ニ據リテ敵ノ前進ヲ遲滯セシムルニ過キサレモノトス然レトモ時宜ニ依リ守者ハ斯ノ如キ大森林内ヲ利用シ攻勢ヲ取り一時持久ノ目的ヲ達スルノ舉ニ出ツルコトアルヘシ
之ニ反シ森林適度ノ廣袤ヲ有スル時ハ之ヲ以テ或ハ陣地ノ支撐點

(位置ニ依リ複廊)ト爲スヘク若クハ一ノ防禦陣地トシテ採用スルヲ得ルモノニシテ殊ニ運動、通視容易ナルモノニアリテハ之ヲ堅固ニ編成シテ陣地ノ守勢地帯ト爲シ以テ節約シ得タル兵力ヲ擧テ攻勢ニ使用スルノ利ヲ得セシムルモノトス

三、形狀及林緣

森林ニ據ル守兵ハ通常其林緣ヲ占領スルモノトス之カ爲メ林緣ヲ屈折シテ互ニ相側防シ得ラルルヲ要ス然レトモ著シキ凸角ハ陣地ノ弱點ヲ成形スルヲ以テ守者ニ不利ナリ

又森林狹長ナル時ハ正面ノ火力ヲ減殺スルノ不利アリト雖モ逐次ノ抵抗ヲ爲シ得ルノ便アリ林内地障等ノ存在スル場合ニ於テ殊ニ然リトス之ニ反シ森林橫廣ナル時ハ正面ノ火力ヲ熾大ナラシメ得ヘシト雖モ其側面薄弱ニシテ且柔軟ノ抵抗(林内ニテ)ヲ爲スニ便ナラス其他林緣ニ存在スル堤、壕、柵等ノ強弱ハ著シク森林ノ價值ヲ増減ス

ルモノトス

四、疎密、樹木ノ種類(通過ノ難易)

林内通過ノ難易ハ主トシテ其疎密、樹木ノ大小、種類並ニ森林發生ノ天然ナルヤ將又人爲的ナルヤニ關スルモノニシテ概シテ天然林ハ林空及林道ニ乏シク樹木ノ種類亦複雜ニシテ大小相混シ多クハ軍隊ノ運動及通視ヲ困難ナラシムルモノトス

老樹林ハ概シテ運動容易ニシテ而モ軍隊ノ掩蔽トナリ直接戰闘上ニ其價值ヲ有スルノミナラス又露營地トシテ恰適ノモノナルコト多シ之ニ反シ小樹林ハ或ハ軍隊ヲ遮蔽スルヲ得ンモ多クハ通過困難ニシテ叢樹ノ之ニ加ハルカ如キモノニアリテハ全ク兵力ノ使用ヲ許ササルニ至ルモノトス

闊葉樹ハ概シテ展望及運動ヲ妨害スルコト多キモ鍼葉樹ハ之ニ比スレハ大ニ其害尠キモノトス

五、林内ニ於ケル林空地障複廓等ノ有無

林内ニ適當ナル林空地障若クハ複廓ニ利用スヘキ地物等ヲ有スル時ハ以テ内部ノ據點ト爲シ或ハ收容ニ利用シ若クハ戰闘ヲ持久シ要スレハ據テ以テ恢復攻撃ノ地歩ヲ占ムルヲ得ヘク其戰術上ニ及ホス價値至大ナルモノトス

今如上ノ目的ニ適スヘキ森林(殊ニ住民地)内ニ於ケル地障又ハ複廓ニ具備スヘキ性能ヲ舉レハ

地障ニ關シテハ

- 一、地障ハ森林(住民地)ノ一端ヨリ他端ニ貫通スルヲ要ス是レ地障ノ一部前方ノ周縁ト同時ニ攻撃セラレサランカ爲メナリ
- 二、地障ハ障礙ノ度大ナルヲ有利トス
- 三、地障ハ前方ニ位置スル軍隊ノ爲メ便利ニシテ認知シ易キ數多ノ通過點ヲ有スルヲ要ス

複廓ニ關シテハ

- 一、複廓ハ諸方向ニ對シ防禦力ヲ有スルヲ要ス
- 二、内部殊ニ諸道路ヲ射撃シ得ルヲ要ス
- 三、外部ヨリスル敵砲火ノ損害ヲ被ラサランカ爲メ適宜後方ニ位置シアリテ而モ蔭蔽シアルヲ可トス
- 四、緣端ト同時ニ攻略セラレサル爲メ適當ニ後退シアルヲ要ス
- 五、恢復攻撃ニ便ナルヲ要ス

森林ノ戰術上ニ及ホス價値夫レ以上ノ如クナリト雖モ一般ニ運動及通視不便ニシテ隊伍離散シ易ク軍隊ノ指揮困難ナルヲ免レス故ニ指揮官ハ部下ヲ手裏ヨリ脱逸セシメサルニ特ニ注意スルコト緊要ナリ
又森林ハ掩蔽ノ利ヲ有スト雖モ其内部ニ於テハ射撃效力ノ發揚困難ナルヲ以テ内部ノ戰闘ニ方リテハ多クハ白兵戰ヲ交フルモノトス故ニ其勝敗ハ主トシテ志氣ノ旺盛、軍紀ノ嚴肅、團結ノ堅固、連繫ノ確實ト否トニ依リ

決スルニ至ルヘシ

其他森林ハ多ク敵ノ彈巢トナルヲ以テ攻防共ニ妄ニ多クノ軍隊ヲ之ニ投入スルヲ避クヘキモノトス

第二 一防禦陣地トシテノ森林ノ攻防

森林ハ其位置廣袤通過ノ難易等ニ依リ其戰鬪法ヲ異ニスルモノナルモ以下主トシテ一陣地トシテ利用シ得ヘキ森林通過容易ニシテ其廣袤赤兵力ニ適應スルモノニ就キ其攻防ノ要領ヲ説述シ次テ各種ノ場合ニ於ケル特異ノ戰鬪法ニ亘ラントス

其一 防禦

- 一、防禦陣地トシテノ森林ニ具備スヘキ性能
 - (一) 林内ノ運動容易ニシテ其廣袤兵力ニ適應スルコト
 - (二) 射界廣濶ニシテ側方ノ地區ハ我攻勢移轉ニ至便ナルコト(一側

ハ障礙等ニ依托スルヲ有利トス)

- (三) 林縁ノ形狀ハ折線狀ヲ爲シ互ニ側防シ得ルコト尙ホ林縁ニ堤壕柵等ヲ有スル時ハ有利ナリ

- (四) 林内ニハ抗戰ニ適スル林空地障複廓トシテ採用シ得ヘキ地物アルヲ有利トス

二、陣地ノ占領

軍隊ヲ分テ地區守備隊ト總豫備隊トニ區分シ地區守備隊ハ更ニ分チテ周縁ヲ占領スル第一線部隊ト地區豫備隊トニ區分スルモノトス而シテ各地區ハ通視運動共ニ困難ナルヲ以テ之ヲ狹小ニシ且其豫備隊ヲシテ時機ヲ失セス應援セシムル爲メ最前線ニ接近セシムルヲ要ス

第一線部隊ハ識別シ易キ林縁ヲ避ケ樹木ノ爲メ射撃ヲ妨害セラレサルヲ度トシ林縁ノ後方ニ火線ヲ選フヲ可トス疎散ナル森林ニ

於テハ特ニ然リ若森林濃密ニシテ我射撃ヲ妨害スル時ハ寧ロ火線ヲ林縁ノ前方ニ設ケ森林ハ唯後方部隊ヲ蔭蔽スルニ用フルヲ有利トス

總豫備隊ハ勉メテ其兵力ヲ強大ニシ(實際強大ニスルヲ得ヘシ)是レ林縁ニ工事ヲ施シ現存スル樹木ヲ利用シ鐵條網等ノ障礙ヲ構成スル時ハ能ク僅少ノ兵力ヲ以テ頑強ノ抵抗ヲ持續シ得レハナリ林縁ニ固有ノ柵壕等ノ地物アル時ハ殊ニ然リ(通常林外ニ位置シ好機ニ投シ攻勢ニ轉スルモノトス

砲兵ハ林外敵襲ノ虞レナキ側方後ニ位置セシメ以テ敵砲ヲ我歩兵ノ守地以外ニ導キ且敵ノ歩兵火ニ對シテ損害ヲ少ナカラシムルノミナラス其行動ヲ容易ナラシムルヲ要ス

騎兵ハ林内ノ狀況其運動ヲ許スニ於テハ忽然林外、林空或ハ道路ニ現出シテ敵ヲ襲ヒ又忽然隱匿スルヲ得ヘシ

三、森林ノ防禦編成

林縁ノ編成 林縁ノ編成ハ樹幹、樹枝、鹿若クハ現存スル樹木ニ鐵線ヲ連結シ以テ林縁ノ各部ヲ閉塞シ主要ノ地點ニノミ散兵壕ヲ構築シ以テ第一線ノ兵力ヲ節約スルニ勉ムルモノトス

樹根蟠踞シ深ク掘開シ難キ林縁ニ於テハ伐採シタル樹桿ヲ以テ掩體ノ構築ヲ容易ナラシムルコトアリ

防禦線ヲ横斷スル道路等ニ施スヘキ設備ノ要領ハ村落防禦ノ編成ニ準スルモノトス

林内ノ編成 林内道路ノ交叉點附近ニ堅固ナル家屋存在スル時ハ之ヲ編成シテ復廊ト爲シ其前方ニ射界ヲ作ルヲ可トス之カ爲メ若適當ナル家屋存在セサル時ハ特ニ簡易ナル框舎ヲ構築スルコトアリ

森林内部ニ林空、窪地、水流、地障等アリテ其位置抗戰ニ適スル時

ハ更ニ第二抵抗線ヲ設備スルモノトス若此等地障ノ爲メ森林内
部ノ交通ヲ妨クル時ハ適宜通過點ヲ設備スルコト肝要ナリ

交通路ノ設備ハ森林ノ防禦ニ於テ特ニ緊要ナリ故ニ火線、援隊
豫備隊トノ間若クハ比隣部隊間ニハ或ハ軍路ヲ新設シ若クハ在
來ノ道路ヲ補修シテ其交通ヲ確實ナラシムルヲ要ス而シテ是等
道路ノ交叉點ニハ所要ニ應シ道標、標兵若クハ燈火ヲ設置シ疑惑
ナカラシム

森林後方ノ編成

守兵ノ退却ヲ收容シ若クハ恢復攻撃ノ目的ヲ
以テ森林ノ後方ニ豫メ設備ヲ施ス時ハ先ツ森林ノ出口ニ對シ凹
線狀ニ散兵壕ヲ構築シ砲兵ハ敵ノ小銃射程外ニ於テ勉メテ出口
ヲ縱射シ得ル地點ニ位置セシメ敵ノ林端ニ達スルヤ猛烈ナル步
砲ノ集中火ヲ發揚セシムル如クスルモノトス

四、防禦戰闘

敵兵林縁ニ接近スル迄ノ戰闘ハ特ニ掲クルノ必要ナシ防者此機
ニ至ル迄途ニ攻勢ノ機會ナク敵兵既ニ林端ニ通リ林縁ノ強奪戰ト
ナルヤ防者ハ敵ノ混亂ニ乘シ猛烈ナル逆襲ヲ行ヒ之ヲ擊退スヘシ

(左記戰例參照)

而モ尙守者其目的ヲ達スル能ハスシテ敵兵全ク林縁ヲ占領スル
ニ至レハ茲ニ防者ハ林内抵抗力ノ如何ニ鑑ミ爾後ノ行動ヲ律スル
モノトス即チ地障其他抗戰ニ適スル地區林内ニ存在スル時ハ豫備
隊ヲ以テ之ヲ占領シ前方ノ友軍部隊ヲ收容シテ再抵抗ヲ繼續シ又
ハ伏兵ヲ設ケテ敵ノ行進ヲ遲滯セシメ其隊伍ヲ混亂シ恢復攻撃ノ
動機ヲ誘起セシムルモノトス之ニ反シ地障其他ノ抵抗線存在セサ
ル時ハ更ニ林外適當ノ地ニ退却シ後圖ヲ策スルノ餘儀ナキモノト
ス

此際ニ於ル退却ハ其實行頗ル困難ニシテ且多クノ損害殊ニ捕虜

ヲ免レサルヘシ

戰例 一旦林縁ノ守ヲ失シタルモ逆襲ニ依リ敵ヲ擊退シタル例

一八七〇年十二月二日獨軍ノ歩兵八大隊ハ「ブーブリー」村及「ブーブリー」林ヲ占領シ二大隊ヲ總豫備隊トシテ其右翼後林外ニ配置シ砲兵一中隊ヲ森林ノ南北側ニ位置セシメ騎兵旅團ハ最左翼ニアリテ佛軍ニ對ス

當時佛軍ハ約一師團ヲ以テ正面及左側面ヨリ之ヲ包圍シ爲メニ獨軍ノ右翼ハ能ク其陣地ヲ保持シ得タルモ左翼ハ遂ニ林中ニ敗退シ支離滅裂林外ニ驅逐セララル然ルニ獨軍指揮官ハ此狀況ヲ視敵ノ未タ秩序ヲ整ヘサルニ乘シ直ニ總豫備隊ヲ以テ東北方ニ急進シ現ニ退却中ナル獨軍ノ一部ヲ併セ猛烈ナル逆襲ヲ試ミ以テ一旦失ヒタル森林ヲ恢復セリ

其二 攻撃

一ノ防禦陣地ヲ構成セル森林ニ據ル敵ヲ攻撃スルニ方リテハ攻者ハ成ル可ク森林外ニ於テ決戰ヲ行フコトニ勉メ以テ困難ナル林内ノ戰鬥ヲ避クヘント雖モ必ス之ヲ奪取スルヲ要スル場合ニアリテハ勢ヒ之ニ眞面目ノ攻撃ヲ指向セサル得ス而シテ此際ニ於ケル攻撃點ノ選定ハ一般ノ要領ニ異ナル所ナシ

攻者漸ク敵ニ接近シ遂ニ銃劍ヲ揮ヒ林縁ニ侵入スルヤ通常防者ハ此機ニ乘シ逆襲ニ轉スルコト多キヲ以テ特ニ速ニ隊伍ヲ整ヘ之ニ應スルト共ニ一方敵ト接觸ヲ失フコトナク連繫ト行進方向トヲ保チ勉メテ速ニ森林ノ前線ニ到達スヘク若森林淺キ時ハ其前線迄一舉ニ突撃ヲ續行スルヲ要ス

森林通過ニ方リテハ特ニ方向ヲ誤ラサルコト緊要ニシテ之カ爲メ羅針盤ヲ用ヒ或ハ太陽ニ依リテ方向ヲ明ニシ或ハ確實ナル道路、小徑、水流、谷地等基準ト爲スニ足ルヘキ地區、地物ニ依リテ其行進方向ヲ規

正シ且常ニ接戰ヲ準備スルヲ要ス之カ爲メ第一線ノ各部隊ハ成ル可ク集結シ各梯隊ノ距離ヲ短縮シ翼後ニ強大ナル豫備ヲ設ケ正面及要スレハ側面ニ少數ノ散兵若クハ斥候ヲ配置スヘシ

森林通過ノ隊形ハ固ヨリ其内部ノ状態ニ關スト雖モ運動容易指揮掌握確實ニシテ直ニ銃劍ノ威力ヲ揮ヒ得ルヲ要ス多クノ場合併立縦隊ノ採用ヲ利トスルニ至ルヘシ

森林内ニ於テハ通視搜索困難ナルヲ以テ敵ノ小部隊ノ爲メ或ハ其行進ヲ遲滞セシメラレ或ハ他ニ誘致セララルル虞大ナルヲ以テ指揮官ハ斷乎タル決心ヲ以テ其行動ヲ規定スルヲ要ス其他銃聲喊聲ニ依リ狀況ヲ誤認シ若クハ敵ノ伏兵等ニ陥ラサルコト肝要ナリ

此等森林内部ノ戰闘ニ於ケル混亂状態ノ景況ハ一度戰史ヲ緝ク時ハ直ニ首肯セララルルモノナリ以下二三ノ戰例ヲ掲ケテ參考ニ資セントス

戰例一 千八百六十六年普埃戰役中ケイニツヒグレッツ附近ノ會戰ニ於ケル「スウイー」ブルドノ戰闘

森林戰ニ於ケル混亂状態ノ發生ハ實ニ豫想外ニシテ其如何ニ甚シキカヲ會得セシムルモノハ「ケイニツヒグレッツ」附近ノ會戰ニ於ケル「スウイー」ブルドノ戰闘ナリトス

此森林ハ南北七百米東西約千五百米ニシテ傾斜比較的峻所々溪流相通シテ丘陵ヲ蔽ヘリ此西方斜面ハ潤葉樹及針葉樹ヨリ成ル高樹林ヲ戴キ東斜面ハ概ネ栽培地區ヲ爲シ此地區内ニ於テ普通ノ大サヲ有スル樹木ヨリ成レル幾多ノ樹列ハ散兵ニ掩蔽ヲ與ヘタリ朝八時「フランゼキイ」ノ普國第七師團ノ前衛タル四箇大隊ハ攻撃ヲ開始シ其間師團本隊ハ「ベナテ」ク北方ニ開進中ニシテ其砲兵ハ村落ノ東南ニ於テ陣地ニ進入セリ此ニ於テ埃軍ノ砲四十門ハ「マスロウエード」西方

陣地ヨリ應射セシカ「スウイーブルド」ノ北端ハ僅ニ塙軍ノ三箇大隊ニヨリ占領セラレシニ過キサリシヲ以テ塙軍カ自餘ノ兵力ヲ此森林ニ招致シ殊ニ東北方ニ稜堡狀ヲ成セル突角ヲ「マスロウエード」ヨリ包圍セント努メタル時ニ於テモ普軍前衛ノ四箇大隊ハ奮然林内ニ向テ前進シタリ此ニ於テ六箇大隊ニマテ増援セラレタル普國兵ハ其南端マテ突進シ且「チシコヴエス」ヲモ奪取シ得タリ

斯クテ普ノ六箇大隊ハ塙軍ノ十餘箇大隊ニ對シ偉大ナル成效ヲ獲得セシカ午前十時過キニ至リテハ將ニ之ヲ失ハントスルニ至レリ蓋シ塙第四軍團ノ主力ハ漸次「チシコヴエス」及「マスロウエード」ノ間ニ於テ八十門ニマテ増加セラレタル砲兵ノ掩護ニ由リ該地域ニ展開セシヲ以テナリ

此射撃下ニ於テ普魯西ノ諸大隊ハ森林内ニ退却シ塙軍ノ

一旅團ハ「チシコヴエス」ヲ恢復セシカ此間其六箇大隊ハ森林ノ東南角ニ闖入シ且其南端ニ於ケル防者ノ後方ニ進ミ一部ヲ以テ西端迄到著セリ

然ルニ此森林戰ニ由リテ相分難セル塙軍六箇大隊ハ今ヤ普軍第七師團歩兵ノ未タ嘗テ使用セラレサリシ他ノ半部ヨリ逆襲セラレ此間普軍第八師團ノ二箇大隊ハ「スカルカ」ノ叢林ヨリ塙軍六箇大隊ノ正面ニ向ヘリ此ニ於テ塙軍ハ大ナル損害ヲ被リテ擊退セラレ林外ニ位置セシ豫備隊及砲兵ニ依リ收容セラレタリ蓋シ此砲兵ハ曩ニ友軍部隊ノ前進中一時其動作ノ中止ヲ要シタルモノナリキ兩軍砲兵ノ效力ハ千八百米ノ距離ニ在リテハ僅少ニ過キヌ而シテ塙軍ハ砲四十門ト共ニ新鮮ナル歩兵十六大隊ヲ戰闘ニ使用セシカ普軍ハ之ニ對向セシムルニ歩兵ニ於テ其半數ヲ以テシ砲兵ニ於テハ

同數以上ヲ以テスル能ハサリキ

普軍第七師團ハ「チシコヴエス」村ニ至ル迄最初ニ獲得セル利益ヲ保持シタリシカ既ニ一兵ノ豫備ヲモ存セサリキ

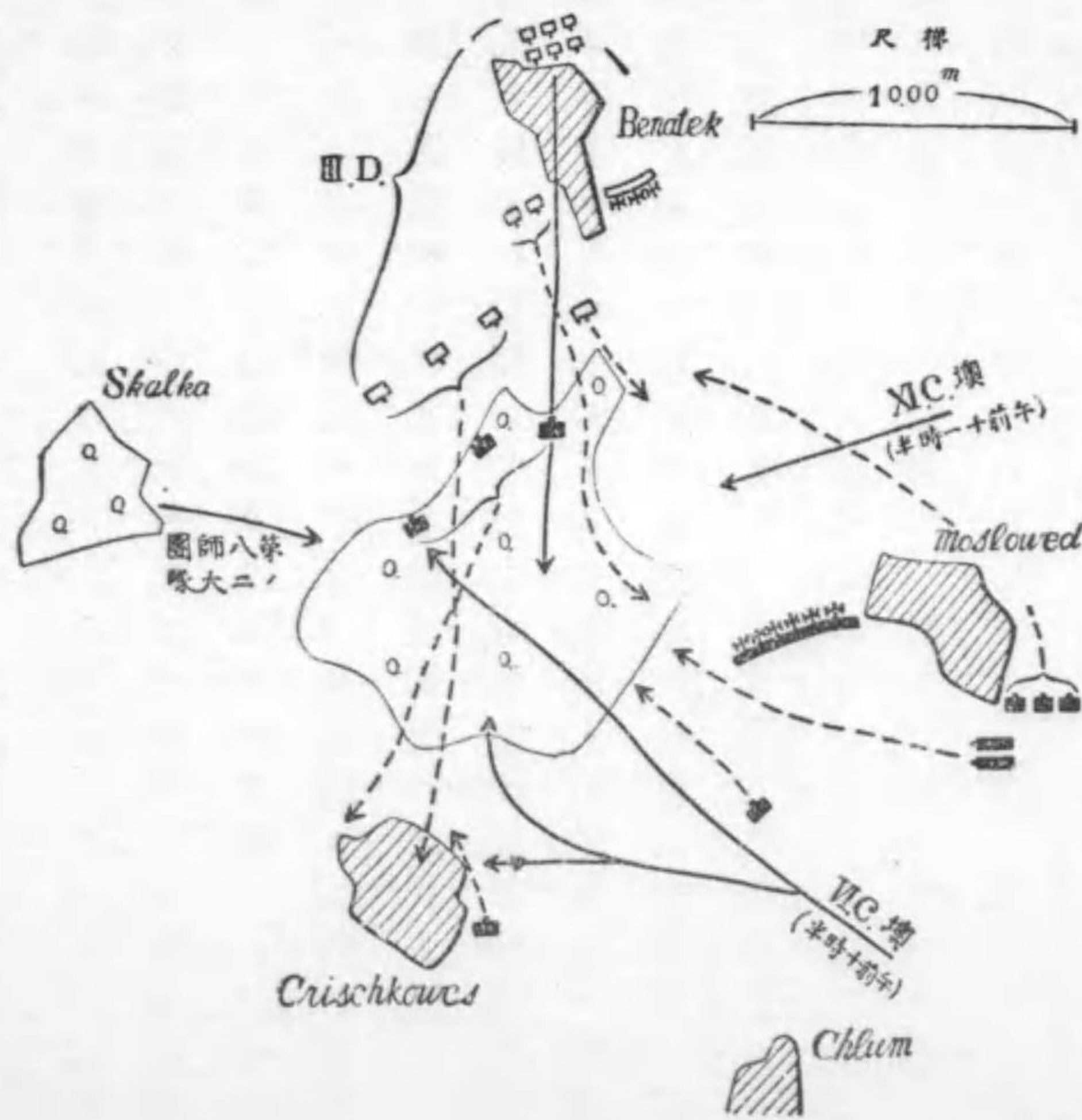
今ヤ自餘ノ塙軍砲兵二中隊ハ「マスロウエド」北方ニ放列ヲ布キ且其第二軍團ノ新鮮ナル二箇旅團モ亦東方ヨリ普軍第七師團ヲ包圍シツツ森林ニ向ツテ前進シ其突撃ノ重點ヲ以テ林中ニ散開セシ普軍ノ諸大隊ニ衝突セリ此ニ於テ狀況愈々不穩トナリ斯クテ此等ノ諸大隊ハ其中央ヲ突破セラレルニ至リ森林ノ大部分ハ塙軍ノ占領ニ歸セリ

唯「チシコヴエス」西方ノ農厦及高樹林ノ南端ニ在リテハ相連接セル普軍ノ散兵群ニ依リ固守セラレシカ其孤立セル普軍ノ散兵群ニ在リテハ敵兵其前ヲ通過スルニ會シ到ル處村内ニ於テ戦闘ヲ繼續セリ而シテ東北部ナル森林ノ稜堡ハ依

然普軍ノ掌中ニ存セリ

次テ塙軍ハ前進中ナル普魯西ノ第二軍ニ對シ其軍隊ヲ正面セシメンカ爲メ森林戰ヨリ其軍隊ヲ收メシカハ普軍第七師團ハ之ニ依リテ脅威セラレタル狀況ヨリ脱スルヲ得森林中ニ於テ混戰中ニアリシ軍隊モ漸次ニ之ヨリ離脱シ得タリ内部ニ於ケル戦闘ハ午後二時過迄繼續シ二千餘ノ捕虜ハ普軍ノ手中ニ入レリ然レトモ普軍ハ中隊ニ至ル迄全然相分離シ其損害ハ實ニ將校八十九卒二千六百六十二人ヲ算スルニ至レリ(要圖參照)

會ノ「ツッレグヒツニーケ」年六六八一
闘戦ノ「ドルワプーイウス」ルケ於ニ戦
(日三月七於)



戰例(二) 千八百七十年「ウヨルト」附近ノ會戰ニ於ケル「ニーデルワルド」ノ戦闘

「ニーデルワルド」ハ其廣袤南北殆ト二吉米餘ニシテ東西亦之ト略、相等シク其林縁ノ外部ハ矮樹密生セルカ爲メ通過困難ナリ此際「マクマホン」軍ノ右翼ニアリシ「ラルチーニユ」師團ハ三箇大隊ヲ以テ「ニーデルワルド」ニ四箇大隊ヲ以テ其南方「フロッシュワイレル」モルスブロン「ニ沿ヒ第二線ニ於ケル三箇大隊ヲ以テ其後方ニ位置セリ而シテ「エーペルバッハ」附近ニハ「ミフヘル」ノ胸甲騎兵旅團アリ獨軍第十一軍團ノ最前線ノ一部ナル第二十一師團ノ五箇中隊ハ軍團長及師團長ノ意圖ニ反シ午前十時「スバツハバツハ」附近ニ於テ「ザウエル」河ヲ渡過セシカ此等ノ諸中隊ハ其西岸ニ達スルヤ忽チ有效ナル砲火ノ中ニ陥リシヲ以テ其四箇中隊ト三分ノ一ハ急遽「ニーデ

ルワルドニ向ヒ隣接セル第五軍團ノ寡弱ナル前遣部隊モ亦協同シテ林内ニ闖入シ暫時優勢ナル敵ト「スバツハバツハ」ニ向ヘル森林ノ突出部ニ於テ相對峙シ更ニ佛軍カ闖入セシ少數中隊ノ左側背ニ對シ一箇大隊ヲ以テ逆襲ノ爲メ前進スルヤ直ニ之ヲ「ザウエル」河ニ沿ヒ撃退セリ

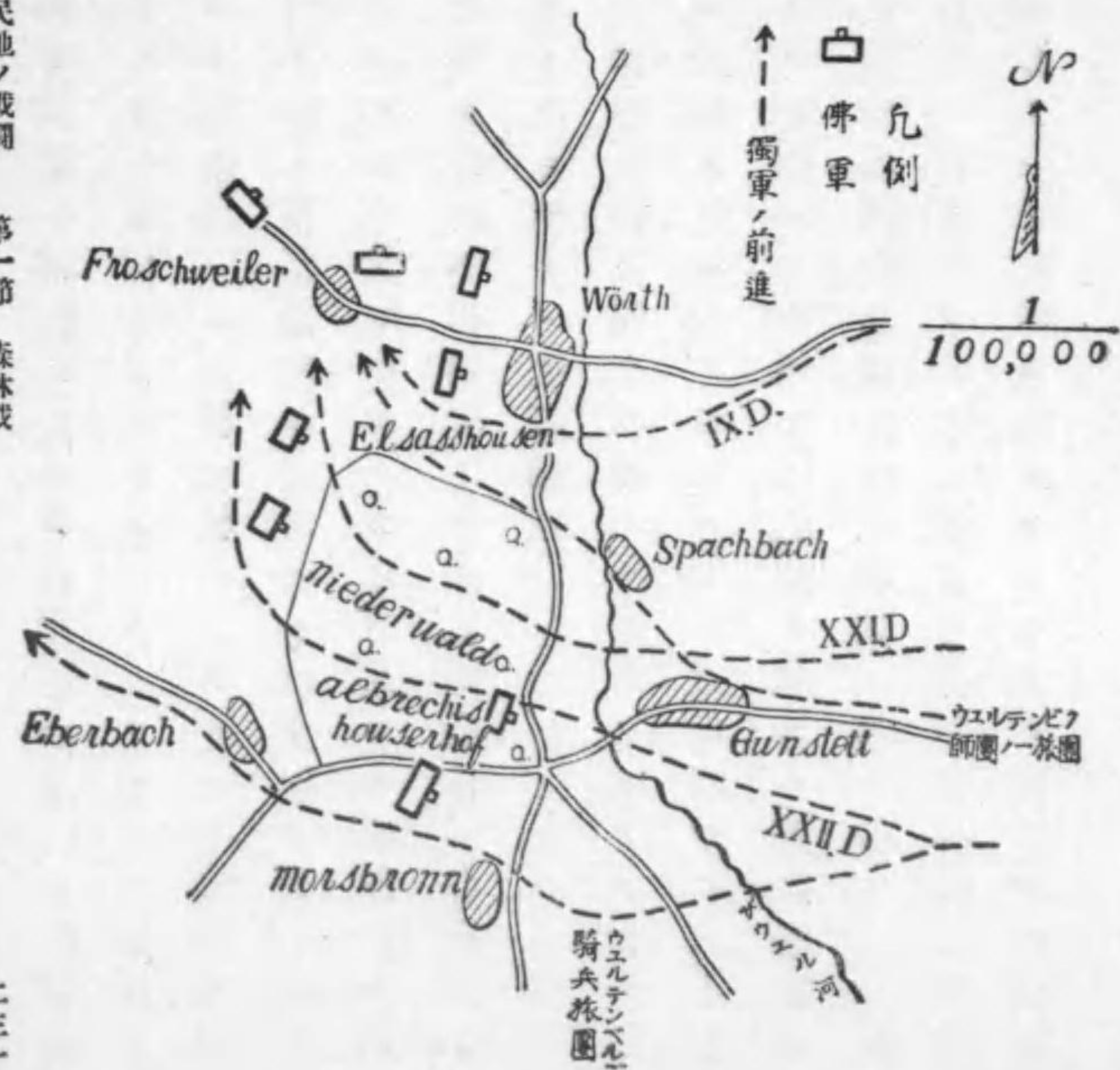
「ニーデルワルド」ハ其後第十一軍團ノ優勢ナル兵力「スバツハバツハ」並ニ南方ヨリ同時ニ前進セシ爲メ事實上茲ニ始メテ獨軍ノ掌中ニ歸スルニ至レリ正午ヲ過クルヤ直ニ第八十八聯隊ノ新鮮ナル二箇大隊ハ「スバツハバツハ」附近ニ於テ「ザウエル」河ヲ渡リ然ル後彼ノ第一回ノ攻撃ニ參與シテ再ヒ集合セル諸中隊ト連繫シ「スバツハバツハ」方向ニ突出セル森林ノ東端ヲ占領シ且此村内ニ於テ漸次右方ニ旋回シツツ其北端ニマテ進出セシカ此ニ到達セシ時ハ甚タシク疎開シタリ

キ此際「ニーデルワルド」ヨリ驅逐セラレタル敵ハ更ニ「エルサスハウゼン」ノ南方ニ停止セシヲ以テ此地點ヨリ再ヒ此敵ヲ撃退センニハ現在ノ兵力ヲ以テハ十分ナラサリキ此間歩兵第二十一師團ノ左翼ハ歩兵第二十二師團ノ最前線タル聯隊ヨリ支援セラレ森林ノ南方ニ於テ激戦ノ後先ツ「アルブレヒスホイゼル」ホーフヲ占領セシカ第二十二師團ノ左翼ハ「モルスブロン」ヲ經テ前進セリ「ミッヘル」胸甲騎兵旅團ノ襲撃及佛軍歩兵右翼ノ前進カ「ニーデルワルド」ノ南方ニ於テ撃退セラレタル後ハ此時迄尙控置セラレタル兵力ト「グンステット」附近ニ於テ豫備ニ残置シタル三箇大隊ニ至ル迄使用スルノ必要ナキニ至リシカ故ニ有力ナル此獨逸ノ二兵群即チ「ハアルブレヒスホイゼル」ホーフヲ經一ハ「モルスブロン」ヨリ「ニーデルワルド」ノ南端ニ向テ前進セリ

左翼ニ於テ第三十二聯隊ハ「エーベルバッハ」ヲ越エテ前進セシカ故ニ向後ノ攻撃運動ハ之ヲ林外ニ導ケリ最後ニ至リ始メテ使用セラレタル第八十三聯隊ノ二箇大隊ハ敵ノ散兵靱軟ナル抵抗ヲ爲セシカハ損害ヲ受ケツツ「モルスプロン」
 「フロッシュユワイレル」道ノ兩側森林中ヲ徐々ニ前進シ得タルニ過キサリキ第二線ニ跟随セシハ五箇大隊ニシテ既ニ損害ヲ被リ再ヒ秩序ヲ恢復セシモノナルカ此左翼後ニ續行セシハ各異ノ三箇聯隊ヨリ成ル一兵群ニシテ未タ秩序ヲ恢復セサルモノナリキ

林内ニ於ケル敵ノ抵抗ノ爲メ漸次第三十八聯隊ノ最前線ニアル八箇中隊ハ其全部ヲ散開スルノ已ムヲ得サルニ至レリ而シテ此等ノ諸中隊ハ午後二時三十分頃漸ク森林北端ニ達スルヲ得ルニ至ル迄叢林ノ爲メ前進作業ニ困難セシカ此

千八百七十八年八月六日ヨリトル戦會一ノ部



時ニ至リ第二線ニ續行セシ諸隊ノ一部ヨリ増加セラレ爲メニ第八十八聯隊中前ニ「スバツハバツハ」ヨリ森林ノ北部ニ前進セシ兩大隊トノ連繫ハ恢復セララルルニ至レリ尋テ一部カ第五軍團ノ左翼部隊ト混淆セシ第十一軍團ノ戰闘線ハ「エルサスハウゼン」ヲ略取センカ爲メ此ヨリ前進セリ斯ノ如クシテ直接森林戰ト相關聯スル此戰闘動作ハ各團隊ヲ全然混亂セシムルニ至リヌ(要圖參照)

其他森林ハ假令其狹小ナルモノニアリテモ亦戰闘指揮ヲ困難ナラシムルモノニシテ之ニ關シ一八七〇年「グラベロットサンブリバ」ノ戰闘ヲ叙スル獨逸參謀本部「戰史研究」ニ曰ク「輕歩兵第三十六聯隊ノ第一著ニ「ポアデュラキユッス」方向ニ差遣セラレタル二箇中隊ハ榴彈砲及霰發砲ノ側射ニ由リ一層森林ニ接近セントスルニ至リシカ此間前進ノ

爲メ第九軍團ニ屬スル砲兵陣地ノ後方ナル牧場ヲ使用セリ此兩中隊ハ相併列シ前方ニ散兵ヲ出シテ西南ヨリ鐵道線路ニ沿ヘル森林ニ入リシカ敵ハ該地ニ於ケル軍隊ノ運動ヲ認ムルヤ否ヤ直ニ此森林ヲ最モ猛烈ニ射撃セリ而シテ其矮樹ノ密生セルハ集中セラレタル彈丸ト相俟テ前進ヲ困難ナラシメシコト非常ナリキ故ニ某小隊ノ如キハ其進入シタル森林ノ南端迄徐々ニ引退セシコト反覆數回ニシテ其他ノ部分ハ該兩中隊ノ援隊偶然相交又セシ後鐵道ニ密接セル東北端ニ進出セリ」ト尙其後「ヘッセン」歩兵第三聯隊第一大隊カ第九軍團ノ苦戰中ナル軍團砲兵ヲ援助セントセシ企圖ニ就テ記シテ曰ク「此大隊ハ鐵道ニ沿ヘル森林ノ西南隅ヲ通過シ軍團砲兵ノ陣地ニ向ツテ展開セシカ列兵ノ多クハ森林通過ノ間ニ於テ正路ヲ失シ遂ニ大隊ノ

來リシ方向ニ再ヒ退却セリ此等ノ輩ハ鐵道ニ沿ヘル叢林ノ西南ヨリ出現セシ時步兵第二十五師團長タル「ヘッセン」ノ「ロイドヰイヒ」親王ノ認ムル所トナリ阻止セラレタリ親王ハ敵ノ逆襲アリタルモノト信シ獵兵第一大隊ニ命スルニ前進シテ戰勢ヲ恢復スヘキヲ以テセリ」ト此獵兵ハ敵カ既ニ退却中ナル友軍ニ追尾セルナルヘキヲ以テ斷然突進シテ之ヲ擊退セサルヘカラスト爲セシニ實際ニ於テハ佛兵ハ全ク林中ニ進入スルニ至ラサリシノミナラス尙佛軍ニ對セル林縁ハ全然獨逸軍隊ニ依リ占領セラレアリシナリ

此等ハ如何ニ森林カ軍隊ノ戰鬥指揮ヲ害スルヤヲ知ルニ足ルヘシ攻者既ニ森林ヲ奪取シ其前端ニ達スルモ輕舉之ヨリ進出スヘカラス先ツ林縁ノ占領ヲ確實ニシ自己ノ散亂セル軍隊ノ集結ヲ圖リ以テ前進

ノ準備ヲ爲スヲ要ス是レ防者ハ假令森林ヲ失フコトアルモ尙戰機ノ挽回ヲ企圖シ攻者ノ不用意ナル林縁進出ニ乘シ反擊ヲ行フコトアレハナリ今之カー例ヲ舉レハ

一八七〇年八月十三日獨佛兩軍ノ各一軍團ハ「ジボド」林ノ南方ニ於テ戰鬥シ佛軍利アラヌ森林ヲ經テ北方ニ退却ス此ニ於テ獨軍ノ步兵八中隊ハ佛軍ヲ追躡シテ林内ニ侵入シ步兵第三十一聯隊ノ中隊先ツ森林ノ北端ニ達シ輕舉ニ進出スルヤ「ビルモンドリ」方向ヨリ猛烈ナル佛軍ノ歩砲火ヲ受ケ更ニ「マリス」河右岸ノ高地ヨリ強大ナル佛軍ノ歩兵及砲兵ニ射擊セラレ狼狽シテ林中ニ潰走ス尋テ第六十六聯隊ノ四中隊來リ亦輕舉ニ林外ニ出ルヤ前者ト同一ノ苦境ニ陥リ將ニ潰亂セントセシモ少佐「ロースケン」ノ指揮スル歩兵二中隊ノ來援スルアリ幸ニシテ大敗スルコトナク退却ヲ區處シ得タリ

第三 森林内ノ戰闘

一、廣大ナル森林ニシテ密集部隊ノ運動自在且近距離射撃ヲ許スモノ

斯ノ如キ森林内ニ於テ起ル戰闘ハ純然タル攻守ノ區別ヲ有スルモノ稀ニシテ多クハ彼我共ニ攻撃ヲ準備シ前進スルモノトス而シテ之カ爲メノ通過ノ要領並ニ部署ニ關シテハ前已ニ述フル所アルヲ以テ以下專ラ此種森林ノ特性ヲ利用スル特種ノ戰法ヲ述ヘントス

抑、森林ハ通視困難ナルト遠距離ノ搜索困難ナル爲メ通常敵ト俄然衝突スルコト多シ而モ其兵力等ヲ審ニスルコト難キノミナラス傳令使カ各指揮官ノ位置ヲ發見スルコトモ容易ナラサルカ故ニ命令、報告及通報等モ適時ニ到達セス從テ既ニ衝突ノ後ニアリテモ指揮官カ敵ノ狀況ヲ明カニスルコト頗ル困難ナリ又各部隊ハ唯己レノ正面ノミノ敵狀ヲ知

リ毫モ他方面ノ狀況ヲ審ニセス殊ニ他隊トノ連繫動作ハ更ニ困難ナルヲ以テ各隊ハ自ラ銃聲若クハ喊聲ヲ目標トシテ動作スルノ已ムヲ得サルニ至ルヲ通常トス要スルニ森林内ノ戰闘ハ唯運動ノ困難ナルノミナラス彼我ノ狀況ノ不明ナルト部隊ノ指揮困難ナルトノ爲メ自ラ任意ノ部分戰ヲ惹起スルノ傾アリ此特性コソ前述特殊ノ戰闘ヲ惹起スルノ主因ニシテ即チ小部隊ヲ以テ一時大部隊ヲ操縦シ以テ時間ノ餘裕ヲ得ントスル持久戰ノ發生スル所以ナリ

此種森林内ニ於テ小部隊ヲ以テ一時持久ノ目的ヲ達セントセハ最初ヨリ全ク獨立セル小部隊ニ區分シテ敵ノ周圍ヨリ包圍的ニ攻撃シ敵カ優勢ナル部隊ヲ以テ攻撃シ來ル時ハ成ル可ク之ヲ他方面ニ牽制シ敵若劣勢ノ部隊ナル時ハ猛烈ニ之ヲ攻撃シ尙ホ爲シ得レハ絶エス其背面脅威ノ手段ヲ取り敵ヲシテ爲ス所ヲ知ラサシムルカ若クハ集團ノ兵ヲ各方面ニ分散セシメテ然ル後適宜ノ時期ニ各獨立部隊ハ豫定スル集合

地ニ退却スルヲ可トス斯ノ如クスル時ハ敵ハ其分散セシ部隊ヲ整頓シテ更ニ前目的ニ向ヒ行動スル爲ニハ非常ニ多クノ時間ヲ要スヘク其森林カ通視不便ニシテ且廣大ナルト尙ホ戦闘力日没ニ渉ルニ從テ一層其困難ヲ増加スルモノナリ然レトモ各獨立部隊ノ豫定地點ニ集合スルヲ收容スル爲メ並ニ不時ノ事變ニ應スル爲メ適當ナル地點ニ一部隊ヲ位置セシムルハ防者ノ爲メ特ニ緊要ナリトス

又各獨立部隊ハ成ル可ク接戰ヲ避ケ射撃ニ依ルヲ可トス然レトモ散開スル時ハ自ラ分散スルノ虞アルヲ以テ一部隊ヲ散開セシムルカ或ハ密集隊形ヲ取ルヲ有利トス

之ニ對シ攻者ハ各方面ヨリ來襲スル敵ニ對シテ相當ノ部隊ヲ向ハシメ主力ハ主要ナル道路ニ沿フテ前進シ側背ノ銃聲等ニ顧慮スルコトナク一意前進シテ速ニ森林ノ前端ニ達スルコトヲ圖ルヘク而シテ敵ニ對セル部隊ハ主トシテ之ニ對シテ主力ノ前進ヲ掩護スルト同時ニ敵ニ誘

致セラレサルカ如クスルヲ要ス之カ爲メ常ニ主力トノ連絡ヲ確實ニシ尙ホ斥候等ハ常ニ敵トノ觸接ヲ保持スルヲ緊要トス本隊カ本道ニ沿フテ前進スル場合ニハ連絡ハ比較的容易ナリ若斯ノ如キ戰況ヲ豫期スル時ハ恰モ四面敵騎ノ來襲ヲ顧慮シツツ前進スル時ノ要領ニ準シテ配兵セハ可ナラン唯此際特ニ顧慮スヘキハ砲兵及小行李等ヲ如何ニスヘキカニアリ若森林餘リ廣大ナラスシテ而モ直後ニ砲兵ヲ使用スル能ハス尙且森林内ニ於テ必ス敵ト衝突スル虞アル時ハ砲兵ハ一時護衛ヲ附シテ後方ニ殘置シ全ク森林占領後ニ之ヲ招致スルヲ有利トス小行李ノ如キモ亦然リ

然レトモ森林廣大ニシテ且其占領後直ニ此等ノ必要ヲ認ムル時ハ之ヲ跟随セシメサルヘカラス此場合ニアリテハ砲兵ハ本道ヲ進メ爲シ得レハ廣キ正面ヲ採ラシメ各隊ノ小行李ハ纏メテ中央後ニ前進セシメ尙ホ側方ノ警戒部隊ヲ大ニスルヲ要ス則チ此場合ニ於ケル全般ノ隊勢ハ

恰、モ一時砲兵及小行李ノ護衛ノ如キ狀況ヲ呈スルモノトス
又森林内ノ戦闘ニ在リテハ攻防者共ニ斥候幕ヲ作ルヲ緊要トス此法
ニ依レハ警戒ヲ嚴ニスルト同時ニ之ニ依リテ敵ノ位置ヲ偵知シ得ルモ
ノナリ此等ノ斥候ハ一度敵ト接近セハ常ニ之ト觸接ヲ保チ絶エス銃聲
ヲ以テ報告ニ代フルト同時ニ主力行進路ノ方向ニ退却スルヲ必要トス
但敵ノ狀況等ニ就テハ絶エス報告ヲ送附スヘキコト勿論ナリ騎兵ハ成
ル可ク兩側ノ警戒ニ任スヘキハ勿論ナレトモ若此方面ニ適當ノ道路ナ
クシテ其運動極メテ困難ナル時ハ或ハ一時歩兵ノ後方ニ跟隨セシムル
ヲ有利トスルコトアリ

二、廣大ナル森林ニシテ部隊ノ運動極メテ困難ナルモノ

斯ノ如キ森林ニアリテハ其内部ニ於テ大部隊ノ衝突スルコト通常稀
ナルモノナリト雖モ道路附近ニ於テ時々小部隊ノ衝突スルヲ免レス此
場合歩兵部隊ハ直ニ大隊縱隊ノ側面隊形等ヲ以テ本道ノ兩側ニ沿フテ

前進シ砲兵ノ如キハ本道ヲ行進セシムルヲ可トス但要スレハ側方ニ斥
候ヲ派遣スヘキコト勿論ナルモ此種ノ森林ハ方向ヲ誤ルコト常ナルヲ
以テ本道ヨリ遠ク離レサルコト及斥候等モ餘リ遠ク出ササルコト肝要
ナリ若本道直線ヲ爲ス時ハ機關銃及砲兵ノ一部ヲ以テ本道ヲ射撃セシ
ムルヲ有利トス又狀況ニ依リテハ騎兵ノ如キハ歩兵ノ後方ニ進マシム
ルヲ要スルコトアリ

第四 廣大ニシテ密集部隊ノ通過ヲ許ス

可キ森林ノ攻防(但防者林縁附近ヲ
占領セル場合)

一、防禦

此種ノ森林ニ於テ防者ノ主ナル不利ハ通常陣地ノ兩翼ニ際限ナキト
林縁ヲ守備スル時ハ歩砲同線ニ配備セサルヘカラサルコト是ナリ

決戰防禦

防者決戰ヲ企圖スル時ハ步兵線ハ林縁ノ前方ニ進メ砲兵ハ森林ノ四角部若クハ林縁ニ配置シ總豫備隊ハ林内ニ位置セシメ騎兵ヲ以テ兩翼ノ警戒ニ任セシムルヲ要ス故ニ此際林縁ハ主トシテ總豫備隊ノ蔭蔽ニ利用セララルルニ過キス

而シテ敵カ我守備セサル一側方ヨリ迂回スルカ如キ時ハ斷然攻勢ニ轉スルヲ必要トス唯斯ノ如キ防禦ニアリテ若擊退セララルル時ハ林内ニ於テ大混亂ヲ來シ或ハ部隊ノ散亂ヲ生スル恐アルヲ以テ之ニ對シテハ豫メ必要ノ準備ヲ爲シ置クヲ要ス
持久防禦

此場合ニアリテハ防者ハ林縁ヲ守備シ且射撃ヲ妨害セサル限り歩砲兵共ニ林縁ヨリ多少後退シテ配置スルヲ有利トス

敵若一側ヨリ迂回スルニ方リテハ自ラ退却セサルヘカラサルカ

故ニ豫メ退却ニ關スル區處ヲ定メ森林ニ吸收セララルル害ヲ除去スルヲ圖ルコト緊要ナリ又爲シ得レハ森林ヲ利用シ敵ノ前進ヲ妨害スルヲ要ス(前項參照)

二、攻撃

之ニ對スル攻撃ハ一般ノ原則ニ從フヘシト雖モ主力ヲ以テ一側ヨリ迂回スルカ如キハ森林内ノ運動極メテ自在ナルカ或ハ通路ノ關係有利ナル場合ニ限ルモノトス

又一度敵ヲ擊退シタル後ハ一部ヲ以テ追擊セシメ他ノ主力ハ直ニ集結シ本道ニ沿フテ接戰ヲ豫期シツツ前進スルヲ要ス又追擊部隊ハ既ニ森林内ニ入レハ直ニ隊伍ヲ整頓シテ密集隊形トナルヘキハ勿論ニシテ且常ニ敵ノ逆襲ニ對シ注意スルコト肝要ナリ

第五 廣大ナル森林ヲ陣地ノ一側ニ有ス

ル場合

一、森林密集部隊ノ運動ヲ許ス時
決戰防禦

此場合ニアリテ防者決戰ヲ企圖セハ森林ヲ利用シテ防勢地區ト爲シ主力ハ開濶地ニ配置シテ敵若誤テ森林内ニ主力若クハ大部隊ヲ進ムル時ハ其反對翼ヨリ攻勢ニ轉スルモノトス此際森林内ノ部隊ハ防禦線ヨリ前方ニ配置スルヲ要ス又時トシテハ此部隊ヲシテ攻勢ヲ取ラシムルヲ有利トスルコトアリ

持久防禦ノ場合ニアリテハ寧ロ前者ニ比シ林内ノ部隊ヲ大ニシ脅威動作ニ出テシムルヲ可トス又林外ノ戰況ニ注意シ退却ノ時機ヲ誤ラサルコト肝要ナリ此際騎兵砲兵ハ勿論林外ニ使用ス故ニ此場合ハ

恰モ開濶地ヲ防勢地區ト爲シタルカ如キ觀ヲ呈スルモノトス

二、森林密集部隊ノ運動ヲ許サル時

此場合ニアリテハ防禦ノ目的如何ニ拘ラス常ニ翼側ノ依托トシテ森林ヲ利用スヘキコト前已ニ述フル所ノ如シ第一森林ノ戰術上ニ及ホス價值參照)

第六 廣大ナル森林ヲ陣地ノ兩側ニ有スル場合

一、森林密集部隊ノ運動ヲ許ス時

此場合ニ於テハ攻防兩者共ニ開濶地ハ射擊陣地トナリ一側ノ林内ニテ一部ノ衝突ヲ來シ他側ノ林内ニテ主力ノ衝突ヲ希望スルモノナリ而シテ何レノ一側ニ主力ヲ用フヘキヤハ全ク狀況ニ關スルモノトス此際主力ヲ成ル可ク林縁ニ沿フテ前進セシムヘキハ攻防兩者共ニ必要ナリ

トス

二、森林密集部隊ノ運動ヲ許ササル時

此場合ニアリテハ開濶地ニ於テ決戰ヲ惹起スルモノニシテ殊ニ攻者ハ純然タル正面攻撃ヲ爲ササルヘカラサル不利ヲ有スルヲ以テ若兩側ノ森林餘リ廣大ナラサル時ハ一部若クハ主力ヲ以テ迂回スルヲ有利トス

第七 森林ノ兩側ニ亘リ陣地ヲ占領スル

場合

此場合ニアリテハ攻防兩者共ニ其兵力ヲ分割セラレ從テ單ニ運動ヲ妨害スルノミナラス指揮ノ困難ヲ來スモノトス而シテ多クノ場合砲兵モ亦分割シテ使用セラル森林カ陣地ノ中央ヲ占ムル時殊ニ然リトス故ニ此際ハ陣地ノ内部ニ縱隊路ヲ作り豫備隊ノ通過ヲ自在ナラシムルト同時ニ豫

備ノ砲兵掩體ヲモ各所ニ準備シ置クコト必要ナリ

第八 孤立セル森林カ陣地ノ各所ニ散在

スル場合

一、陣地ノ正面ニ散在スル場合

此場合ハ操典ノ所謂「戰場ニ散在スル森林及住民地ハ屢々戰鬥ノ焦點トナルモノトス」ニ該當スルモノニシテ防者ノ爲メ特ニ有利ナリトス即チ之ニ據リテ自ラ據點式配備ヲ爲スヲ得ヘク若此森林カ適度ノ間隔ヲ以テ一線上ニ在ラサル時ハ殊ニ然リ即チ彼我共ニ側防シ得ル如ク編成シ得レハナリ此際砲兵ハ各森林ノ中間地區殊ニ凹角ノ各部ニ配置セラルルヲ適當トス從テ兩翼ハ自ラ弱點ヲ成形スヘシ故ニ攻防兩者共ニ此點ニ著眼スルモノトス

二、陣地ノ内部ニ散在スル場合

森林陣地ノ内部ニ散在スル時ハ我内部ヲ蔭蔽シ得ルト同時ニ豫備隊等ノ運動ヲ妨害スルモノトス

三、陣地ノ前方ニ散在スル場合

此場合ニアリテハ防者ノ爲メ不利ニシテ單ニ敵ノ行動ヲ察知シ得サルノミナラス我射界殊ニ砲兵ノヲ妨ケ且敵ノ爲メ有利ナル據點ヲ與フルモノトス

第二節 住民地ノ戦闘

第一 住民地ノ戦闘上ニ及ホス特性

住民地ノ戦闘上茲ニ戰鬥上ト稱スルハ主トシテ戰鬥ヲ意味スルモノニシテ宿營、給養等廣義ノモノニアラスニ及ホス特性ハ前節森林ト大差ナシト雖モ家屋ノ種類、構造、圍牆ノ景況ニ依リ稍、其趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ以下主トシテ此等諸項ニ就テ説述スルニ止メ其位置、廣表、形狀、内部、地障

ノ有無等ヨリ來ル特性ニ關シテハ森林戰ニ述フル所ニ依リテ之ヲ會得スヘシ

一、家屋ノ構造煉瓦若クハ石等ヨリ成リ且堅固ナル

圍牆ヲ有スルモノ

此等ハ多ク歐米諸國ヲ始メ支那、大陸等ニ於テ見ル所ニシテ銃、砲彈ニ對シ一般ニ良好ナル掩體トナリ其圍牆ハ通常戰鬥ノ主線ト成ルヘク其抵抗カ森林ニ比シ極メテ頑強ニシテ能ク柔軟ノ戰鬥ヲ交エ得ルモノトス

軍隊ノ指揮、方位ノ認定亦森林ニ比シ容易ナリト雖モ軍隊ヲ分テ家屋及園庭、牆壁等ヲ占領セシムル時ハ森林戰ト等シク彼我共ニ分離シ易ク且其退却ニ方リ動作困難ニシテ捕獲セラルルノ虞大ナリ故ニ小ナル住民地ニアリテハ森林ト同シク戰鬥上重要ナル據點ト爲スヲ得ヘシト雖モ之ニ反シ大ナル住民地ニアリテハ指揮、運動

共ニ困難ナルヲ以テ守者ノ防禦線ハ却テ之ヲ前方ニ置クヲ有利トスルコトアリ

二、家屋ノ構造脆弱ニシテ堅固ナル圍壁ニ乏シキモノ

例ヘハ我國一般ノ住民地ノ如キモノニシテ其特性左ノ如シ

- (一) 家屋ハ概シテ木造ナルヲ以テ火災ニ罹リ易ク草蓋ナルモノハ殊ニ然リ又其屋蓋ハ單ニ砲彈ニ對スルノミナラス小銃彈ニ對シテモ全ク抗力ナシ
- (二) 住民地ノ周圍ハ多ク籬笆ヲ以テ圍繞スルノミニシテ堅固ナル圍壁ヲ有スルモノ少ナシ故ニ村緣ハ工事ヲ施スニアラサレハ堅固ナル防禦線ヲ成形スルヲ得ス
- (三) 住民地ノ形狀ハ概ネ道路ニ沿フテ延長シ守兵ノ配備ニ適スルモノ少ナシ
- (四) 住民地内部ニハ以テ複廓ト爲スヘキ廣大堅固ナル建築物ナ

ク籬笆、竹柵等ノ爲メ交通不便ナリ
故ニ斯ノ如キ住民地ハ其前方ニ火線ヲ設ケ住民地ハ單ニ後方部隊ヲ蔭蔽スルニ止メシムルヲ可トスルコトアリ

第二 防禦

住民地ノ攻防ハ森林戰ト類似スル所頗ル多キヲ以テ以下主トシテ其特性ニ基ク攻防ノ關係ヲ論セントス

一、防禦陣地トシテ有利ナル住民地

- 一、村緣ハ數多ノ小突出部ニ依リテ正面ノ側防ヲ容易ナラシメ堅固ナル土壘、牆壁又ハ建物ニ依リ安全ナル掩蔽ヲ與フルヲ要ス著シキ凸角ヲ有シ若クハ縱射セラレ易キ道路多キハ共ニ不利ナリ
- 二、正面ノ延長ハ防者ノ兵力ニ適應スルヲ要ス若過大ニシテ全ク守備シ得サルカ若クハ守備ヲ缺ク部分ヲ有スル時ハ攻者ノ進入ヲ容

易ナラシム

- 三、内部ニハ敵彈ニ堪ユヘキ堅牢ナル建物、各方面ニ進出容易ナル數多ノ通路、豫備隊ノ位置ニ適當ナル場所、第二抵抗線トナルヘキ地障若クハ複廓ニ適スル家屋ノ存在スルヲ要ス
- 四、前地及側地ノ地形ニ關シテハ森林ノ部ニ於ケルカ如シ
其他陣地ノ支撐點トシテノ住民地ニアリテモ其具備スヘキ要件ハ概シテ上記ノ如キモノトス

二、防禦編成

外圍[◎] 外圍ニ現存スル墻壁、土壘、木柵、壕等ヲ利用シ之ヲ有利ニ編成スルハ勿論要スレハ散兵壕ヲ構築シ障礙物ヲ設置ス又凸角、凹角ヲ利用シ側防ノ設備ヲ行フコト特ニ緊要ナリ但此外圍ハ成ル可ク家屋ノ前方ニ隔離シアリテ敵ヲシテ距離ノ測定ヲ困難ニシ且建築物及彈丸ノ破片等ニ依リ守兵ニ損害ヲ與ヘサルヲ要ス

防禦線ヲ横斷スル在來ノ道路中攻勢ニ使用セントスルモノハ其出口ヲ勉メテ凹角内ニアラシムルヲ有利トス

道路ノ阻絶ハ外圍ノ稍、後方ニ於テ敵ノ遠見ヲ避クヘキ位置ニ所在ノ材料ヲ利用シテ之ヲ構築ス即チ重量物ヲ積載シタル車輛ヲ組ミ合セ又ハ土砂ヲ盛りタル箱樽等ヲ層積シ若クハ木材、石、煉瓦、土俵、土囊等ヲ堆積シ之ヲ覆フニ土ヲ以テスルカ如シ

内部[◎] 外圍ニ直角ニシテ交通不便ナル墻壁ニハ開口ヲ設ケ以テ防禦ノ各區ヲ連絡シ又豫備隊ノ位置ヨリ諸方向ヘノ交通ノ爲メ運動ヲ妨クヘキ障礙物例ヘハ家屋ノ一部又ハ耕作物等ヲ排除シ要スレハ橋梁ヲ架シ且道路ノ交叉點ニハ道標又ハ標兵ヲ配置スヘシ

又複廓ニ利用セントスル建築物ハ勿論一時局部ノ防禦ヲ爲スヘキ建築物ニハ獨立家屋(若クハ集團家屋)ノ防禦編成ニ準シ工事ヲ施スモノトス家屋ノ防禦編成ニ關シテハ築城教程參照其他第二防禦

線ニ關シテハ森林ノモノニ準ス村落防禦ニ於テ注意スヘキハ火災ニ對スル防備ナリ故ニ豫メ消防ノ設備ヲ充分ナラシムルヲ必要トス

三、防禦戰闘一般ノ要領

住民地ノ防禦ハ圍壁及家屋ノ景況ニ應シ各部隊ノ守備地區ヲ定メテ守備セシメ假令敵兵其一區域ニ進入スルモ他ニ波及セサル如ク設備スルヲ必要トス

此際地區ノ區分ハ比較的狹少ニシ且主ナル入口ハ一地區ノ中央トシ其守備兵ハ圍墻ニ占據スルカ若クハ其前方ニ新ニ工事ヲ施シ之ニ據ルモノトス

住民地直接ノ防禦ニ任スルモノハ多クハ歩兵ニシテ稀ニ砲兵ヲ住民地ノ入口或ハ道路上ニ使用スルコトアリト雖モ通常砲兵及騎兵ハ其外部ニ使用セラルルモノトス

援隊及地區豫備隊ハ前線殊ニ入口ヲ速ニ援助シ得ルカ如ク近ク蔭

蔽シテ配置スヘク極力其維持ヲ繼續セントセハ此等豫備隊ノ一部ヲ分テ地區内肝要ナル家屋ニ入レ之ヲ守備セシムルヲ要ス

總豫備隊ハ多クハ村落外ニ位置シテ逆襲ヲ行ヒ或ハ防禦線ヲ延長シ又ハ村落内ニ進入セシ敵ヲ擊退ス

敵兵住民地内ニ侵入セハ逆襲ヲ行ヒ之ヲ擊退スルコトヲ勉ムヘク村落ノ一部ト雖モ守兵之ヲ頑強ニ維持スル時ハ大ニ此動作ヲ容易ナラシムルヲ得ヘシ斯ノ如キ防禦戰闘ニ任スル守兵ハ各獨立シテ其擔任スル地區ヲ固守シ敵彈ノ慘害ト優勢ナル敵ノ包圍並ニ其肉薄トニ對シ益々志氣ヲ振興シ以テ最後ノ尺土ト俱ニ斃ルルノ覺悟ナカルヘカラス今最近日露戰役ニ於ケル此種戰例ノ一ニテ舉クレハ

(1) 黑溝臺附近ノ戰闘中一月二十七日步兵第三十二聯隊ハ同第五聯隊ノ右翼ニ連リ蘇麻堡北端ヨリ以東ノ線ヲ占領セシカ同夜午後十一時頃ヨリ敵兵襲撃シ來リ同村西北角附近ニ向ヒ數回頑強

ナル突撃ヲ繰リ返シ終ニ土壁ヲ攀登スルヤ我第八中隊ハ銃劍ヲ以テ之ヲ刺殺シ第六第三中隊ハ道路上ヲ突貫シ來ル敵ヲ擊退セリ又蘇麻堡西南部ニ向ヒシ敵ハ一部ヲ遠ク南方ヨリ迂回シテ村落ノ中央ニ進入セシカハ第八中隊ハ一時敵ノ包圍ヲ受ケシモ斷然逆襲シテ敵ト格闘シ其十數名ヲ刺殺シ天明後第四第七中隊ト協力シテ敵ヲ側射シ之ヲ潰亂ニ陥レ敵ハ莫大ノ死屍ト將校以下七十四名ノ捕虜トヲ遺棄シテ退却セリ

(2) 奉天會戰ニ於ケル我第三師團南部旅團ノ三軒家及干洪屯ニ對スル攻撃ハ亦如何ニ住民地戰闘ノ慘烈ナルヤヲ證スルニ足ルモノニシテ同時ニ守兵ノ一部タリトモ村落ノ某部ヲ維持スル時ハ恢復攻撃ヲ容易ナラシムルヲ立證スルモノナリトス以下「軍隊指揮及兵術ノ爲メノ四季報」(獨逸發行)ノ一節ヲ掲ケ其戰況ヲ示サントス

(前略)「南部旅團ノ左翼聯隊ハ六箇中隊ヲ以テ正面ヨリ二箇中隊ヲ以テ南方ヨリ包圍シツツ延長約四百米ニ及ヘル干洪屯南部ニ進入セシカハ茲ニ激烈ナル榴彈戰ト銃劍格闘ヲ生シ日本兵ハ家屋ヨリ家屋ニ漸次突進シ終ニ村落南部ノ全體ヲ占領セリ而シテ北部ニ於テハ唯二三ノ農家ヲ奪取シ得タルノミナリキ已ニシテ露兵ハ猛烈ナル逆襲ヲ行ヒ手榴彈ヲ投擲シ或ハ之ヲ木製臼砲ニ依リ發射セリ圍壁ニ於ケル日本兵ハ破墻孔ヲ砂囊ヲ以テ閉塞セシモ瞬時ニシテ日本軍ノ兩大隊ハ之ヲ合スルモ三百人ニ減少セリ將官南部ハ豫備ノ二中隊ヲ此ニ加入セシメタルモ已ニ占領セシ北部ノ農家ハ再ヒ之ヲ拋棄セサルヘカラサリキ」云々

複廓守備兵ハ全ク獨立シテ動作シ假令村落ノ他ノ部分ハ既ニ敵中ニ落ツルモ依然トシテ之ヲ固守シ以テ村落全部ノ略取ヲ妨ケ恢復攻撃ヲシテ容易ナラシムルヲ要ス

周縁及家屋ノ構造堅固ナル住民地ニアリテハ原野ニ於テ戰闘ニ耐
エ難キ新募未熟ノ歩兵ト雖モ尙ホ能ク優勢ナル敵ニ對シ頑強ナル抵
抗ヲ爲シ得ヘシ若精練ナル軍隊ヲ以テ適當ニ防禦セハ假令敵ヨリ包
圍セラルル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ維持シ得ヘキモノトス

戰例

(一) 周縁堅固ナル住民地ニ於テ新募未熟ノ軍隊ヲ以テ頑強ナ
ル抵抗ヲ爲セシ例

日露戰役ノ初頭「マドリド」中佐ノ指揮スル露軍挺進騎兵
隊ハ懷仁方向ヨリ前進シ楚山、熙川、德川、价川ヲ經テ明治三十
七年五月十日韓國ニ於ケル我安州兵站司令部ヲ襲撃セリ當
時同地ニアリシハ將校以下僅ニ百九十人ニシテ其大部ハ主
計、軍醫、補助輪卒及本邦商人、人夫ヨリ成リ全ク武器ヲ執ラサ
ルモノ四十五人ヲ有セリ敵ハ朝來安州東南門及東北門前方

約千米ノ高地ヲ占領シ遂ニ東北門ニ向ヒ突撃シ來リシモ我
勇敢ナル防守ニ依リ其目的ヲ達スル能ハスシテ東北方高地
ニ據リ午後二時ニ至リ敵ノ兵數三百餘ニ増加シ城内ヲ瞰射
セシカ當時我後備歩兵一小隊餘平壤ヨリ來リ増加シ屢々攻勢
的態度ヲ取リテ敵ノ企圖ヲ挫折セリ此ニ於テ敵ハ同夜暗ヲ
利用シテ死傷者ヲ收容シ翌十一日未明悉ク价川方向ニ退却
セリ

(二) 小部隊集團家屋ヲ占領シ敵ノ包圍ニ會フモ能ク頑強ナル
戰闘ヲ持續セシ例

「ミシチエング」兵團ノ南下ニ方リ接官堡鞍馬山守備隊長後
備歩兵第四十一聯隊第三中隊長安原大尉ハ遼東守備軍司令
部遼陽派出所員ノ通報ニ基キ騎兵第一聯隊太子河、渾河間ニ
アル敵ヲ擊攘スル爲メ一月十日唐馬寨發三尖泡ヲ經テ黃州

坨ニ向ヒ前進中ナリニ助力セント欲シ同日午前九時發午後一時小馬泡東方約二千米ニ達セシ時西北方ヨリ敵四五百騎ノ二集團前進シ來ルヲ發見シ直ニ散開シテ之ニ方リシモ漸次包圍セラレントセシヲ以テ午後三時小馬泡東南凹地ニ方陣ヲ作リテ四面ノ敵ニ對シ日沒前更ニ小馬泡東方約千三百米集團家屋ノ敵ヲ驅逐シテ同地ニ占據セリ(此時中隊長安原大尉以下死傷三十餘ニ上ル)

爾後敵ハ砲撃ヲ加ヘ日沒後三回ノ突撃ヲ敢行セシモ中隊ハ頑トシテ抵抗シ悉ク之ヲ撃退セリ然レニ敵ノ爲メ家屋周圍ニ堆積シアリシ高粱ニ放火セラレテ忽チ炎々タル猛火ニ包マレ寸時モ止ルコト能ハサルニ至リシヲ以テ北方及東方ニ向ヒ突進シ漸ク血路ヲ開キテ翌十一日午前十時迄ニ接官堡、牛莊等ニ歸著セリ

第三 攻撃

住民地ノ攻撃ハ最モ悲惨ノ狀況ヲ呈スルモノニシテ其家屋及周圍ノ編成堅固ナルニ從ヒ益々頑強ノ戰闘ヲ惹起スヘキモノナルヲ以テ攻者ハ迂回若クハ包圍ニ依リ之ヲ陷落セシムル如ク勉ムルヲ要ス是レ斯ノ如キ攻撃ハ守兵ヲシテ大ニ危険ヲ感セシムルモノニシテ多クハ退却ノ動機ヲ誘發スルモノトス

然レトモ眞ニ防者ニシテ其保持ニ勉メ攻者亦爾他ノ關係上之ヲ強奪セサルヘカラサル時ハ之ニ眞面目ノ攻撃ヲ施ササルヲ得ス此種攻撃ニ於テハ手榴彈ノ準備特ニ必要ナリ

此際ニ於ケル攻撃點選定ノ要領ハ森林戰ニ準スヘキモ成ル可ク圍牆ナク敵ノ支撐點若クハ複廓ニ適スル建築物ナキ部分ニ選定スル如ク注意スルヲ可トス

攻撃ニ方リテハ砲兵特ニ野戰重砲ノ援助ヲ必要トスルモノニシテ該砲兵ハ突撃點ニ向ヒ火力ヲ集中シ之ヲ破壊シ若クハ火災ヲ起サシムルコトニ勉ムルモノニシテ其效力ハ直接ノ威力ヨリモ寧ロ爆裂彈ノ爲メ敵ノ志氣ヲ沮喪セシムルニアリトス

又工兵ハ爆藥ヲ以テ圍壁ヲ破壊シ又ハ障礙物阻絶ヲ除去スル等協同シテ歩兵ノ攻撃ヲ援助スルモノトス

突撃功ヲ奏シ攻者住民地内ニ進入セハ其部隊ハ敵ニ追尾シテ其前線ニ至ルマテ突撃ヲ續行スヘシ此際敵ノ尙ホ保持スル家屋アル時ハ一部隊ヲ殘シ之ニ向ハシムルヲ要ス蓋シ家屋毎ニ逐次ニ戰鬥ヲ遂行スルハ防者ノ利トスル所ニシテ攻者ハ之カ爲メ多大ノ時間ヲ費シ敵ノ恢復攻撃ヲ容易ナラシムルニ過キサレハナリ

然レトモ敗者ノ勢窮リ家屋内ニ隠ルルモノハ假令全ク孤立スルニ至ルモ俄ニ武器ヲ投シテ降伏セサルコトアルヲ以テ攻者ハ先ツ之ヲ包圍シ若

干ノ砲ヲ以テ其家屋ヲ破壊シ敵ヲ屈伏セシムルヲ可トス

獨立又ハ集團家屋ニ對スル攻撃モ亦之ニ準スルモノトス

戰略及戰術 第二卷 終

大正四年十月十三日印刷
大正四年十月十六日發行

（戰略及戰術第二卷附）

（定價金九拾錢）



編輯者

東京市麴町區平河町四丁目十一番地

宮本林治

印刷者

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

山田三太郎

印刷所

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

山田活版所

東京市麴町區平河町四丁目十一番地

發行所

宮本武林堂

振替口座東京一〇九二二番
電話番町五五一八番

世界萬國に比類なしと稱せらるゝ「如風居士著」

戰史步兵操典證解

全三冊

第一卷 綱領 第二卷 攻 第三卷 夜戰、持久戰、山地、河川、森林、住民地ノ戰、他兵種ノ對スル步兵ノ動作

總紙數千三百餘頁
 引證戰例戰話約六百條
 戰圖實況繪畫六十餘枚
 地圖戰圖大小五十二枚
 菊版本總洋布製最精美本

捕一部 四圓五拾錢
 每冊 一圓貳拾錢
 內地 一圓貳拾錢
 郵稅 每冊拾貳錢

我國否々世界軍學界に破天荒なる趣味津々感興湧くが如き本書は、故乃木將軍が本書に題したる『くはし戈、ちたるのくにの、もの、あらみたまこそ、劍なりけれ』の精神を遺憾なく發揮したるものにして、操典の條項はこれあるが爲め頗る易解にして、且つ由來無味乾燥に陥り易き操典は、本書に依りて耽讀手を釋く能はざる好讀物と一變了れり、即ち其意義を講釋する爲めには、證解の爲めに内外古今多筆鋒を揮ひ、極めて平易簡明にして、之が説明に唐宋諸家及我國志士烈婦等の詩歌不動如山の大鐵案を下し、一見其原則の多難を網羅し、之が説明に唐宋諸家及我國志士烈婦等の詩歌比類を見ざる良著と稱するに躊躇せず、果せる哉本書を讀めたるは、我日本は勿論殆ど世界萬國に其同一に過褒に近き大贊辭を贈りて、著者が多大の勞力に酬むられたる、當時の英國大使館附武官ソマ書に充つるの目的を以て漢譯成れりとの通報を受く。以て本書の價值知るべし。

發行所 東京東區平河町四丁目二番 宮本武林堂

講兵會改纂

增訂正原則之圖示

製本四六版洋布製
 價壹圓六拾五錢
 郵稅 內地八錢
 外地拾貳錢

内 戰闘一般ノ要領
 攻 擊、防禦、戰術
 持 久戰、夜戰、却戰
 追 擊、退却、戰術

各兵種ノ形ヲ増補シテ最鮮明ナル三色刷石版印刷ト爲シ之ニ必要ノ説明ヲ加フ

曩ニ本書ヲ刊行スルヤ空前ノ珍書トシテ嘖々タル大好評ヲ以テ迎ヘラレタルト同時ニ、大方熱心ナル諸公ヨリ其編纂方及内容ノ補纂ニツキ指教、要望ヲ受クルコト非常ノ多數ニ上リ、茲ニ改纂ノ必要ヲ認メ乃チ某々學校教官及講兵會「講兵」統裁官數氏ニ依囑シテ大增補、大改纂ヲ斷行シタルモノ、洵ニ戰術界珍中ノ珍、寶中ノ寶タルヲ失ハス。

發行所 東京東區平河町四丁目二番 宮本武林堂

陸軍士官學校校長 橋本勝太郎閣下序文
 陸軍士官學校教官 坂本政右衛門殿校閱
 陸軍士官學校教官 伊藤政之助殿講述

現地戰術

上下貳册 製本洋布製
 挿圖三百箇 紙數八百六十頁
 價貳圓 送料内地拾貳錢
 外地貳拾四錢

內容 步、騎、砲、單兵種ノ戰闘
 追擊退却 夜間戰闘
 前哨 局地戰各種 宿營ヲ用ヒテ對照研究ニ便
 諸偵察判斷ナラシム

本書ハ最近陸軍士官學校生徒ノ爲實施セラレタル現地戰術ノ輯録ナリ、
 其設想實際、指導適切、説明穩健、纂輯斬新ナル共ニ異色アリ。而シテ其
 說ク所時ニ精神的方面ヨリシ、或ハ教育上ノ見地ヨリシ、又ハ戰史ノ例證
 ヨリシ、乃至ハ常識ノ判斷ヨリシテ、推シテ戰術トノ調和ヲ律ス。
 乃チ戰術研究者及將校團教育並精神修養上無二ノ好參考書タリ。

陸軍士官學校將校集會所發行

取扱所 東京麹町區平河町四丁目 振替東京第八五七一番 講兵堂

特約 東京東區平河町四丁目 宮本武林堂 振替東京第一九〇二番

適確簡潔ヲ以テ稱揚セラレツ、在ル「同志會著」

陣中要務詳解

全五册 總紙數千六百餘頁
 菊版洋布製
 每部價四圓貳拾五錢
 内地郵稅 每册八錢

第一卷 戰闘序列、部隊間ノ連繫、通報々告 第二卷 搜索及諜報勤務、警戒勤務、行軍ノ警戒
 第四卷 宿營、行李、輜重、給養 第五卷 衛生、馬匹衛生、彈藥補充、通信、鐵道輸送、船舶輸送、兵站、憲兵、戰闘詳報、陣中日誌、留守日誌

適確簡潔ノ世評高キ本書ハ陣中勤務ノ原理原則ノ詳解ヲ經トシ、改正ノ要點ニ對スル釋義ヲ緯ト爲シ、之ニ參スルニ史實的ノ例證ヲ以テシタルモノニシテ「講兵」統裁官協力ノ下ニ、同志會諸官ノ分擔執筆及分科專門ニ屬スル事項ハ悉ク其專門家ノ筆ニ成ルモノナリ。

發行所 東京東區平河町四丁目 宮本武林堂 振替東京第一九〇二番

今や世界的歡迎を受くる至れ「成仁武夫無名戰士共著」

戦物語と繪巻物と兼備せる戦史評論

毎月一冊 郵税別 拾錢
 一月分 郵税別 貳拾錢
 一月分 郵税別 貳拾錢
 一月分 郵税別 貳拾錢

既刊

- 第一卷 價貳圓 内容 定州騎兵戰 鴨綠江戰團其一 得利寺戰團其一 三塊石山夜襲 萬寶山戰團 鴨綠江戰團其二 得利寺戰團其二 萬寶山戰團 鴨綠江戰團其三 鴨綠江戰團其四 鴨綠江戰團其五 鴨綠江戰團其六 鴨綠江戰團其七 鴨綠江戰團其八 鴨綠江戰團其九 鴨綠江戰團其十 鴨綠江戰團其十一 鴨綠江戰團其十二 鴨綠江戰團其十三 鴨綠江戰團其十四 鴨綠江戰團其十五 鴨綠江戰團其十六 鴨綠江戰團其十七 鴨綠江戰團其十八 鴨綠江戰團其十九 鴨綠江戰團其二十
- 第二卷 價貳圓 内容 劍山附近攻略 劍山附近防禦 露軍騎兵營口挺進 永沿、長谷川兩騎兵隊ノ挺進 十三里臺子附近戰團 豐陽邊門附近防禦 橋頭附近戰團 弓張嶺夜襲 寒城嶺附近戰團 爾靈山攻略 鴨綠江戰團其二十一 鴨綠江戰團其二十二 鴨綠江戰團其二十三 鴨綠江戰團其二十四 鴨綠江戰團其二十五 鴨綠江戰團其二十六 鴨綠江戰團其二十七 鴨綠江戰團其二十八 鴨綠江戰團其二十九 鴨綠江戰團其三十
- 第三卷 大正四年一月より毎月一回刊行

其論は仲尼司馬遷に優るとも劣らず、以て遠慮會釋なく現存する諸指揮官に向つて至公至正にして且つ辛辣至極なる筆裏筆誅を加ふに憚からず、其筆は銳利巧妙にして他の模倣すべからざるものあり、人の言んと欲する所を簡單明快に道破し盡す所全く廢姑の手を借りて痒きを搔くと一般、其畫は實際實地を馳驅せる日露戰役陸軍省從軍畫伯石原白道氏の筆になり、殆んど全く眞に迫りて實戰其儘を眼前咫尺に見るが如し、宜なる哉我軍軍事界近來の快著として、陸軍大學校及各學校、軍隊、官衙に數千の愛讀者を有し、現に本評論を補導として日露戰史を研究せられつゝある拾數箇の將校團あるを知る、諸外國亦大に之を稱賛し大に之を歡迎しつゝあり、就中大英國陸軍省は大戰渦中に在るにも拘はらず、在本邦大使館に命じて本評論を翻譯急送せしめつゝあるは事實なり、以て本紙の價值知るべきなり。

發行所 東京 東區 平河町 四丁目 宮本武林堂

關東都督男爵中村大將閣下題字
 關東都督陸軍部參謀長西川少將閣下序文
 關東都督府陸軍部御編纂

東蒙古

紙數四百八十五頁
 菊版洋布製美本
 寫真版插繪四十五頁
 色彩附圖大小八枚
 蒙古明細大地圖壹枚
 價貳圓五拾錢
 送外內地貳拾錢

本書ハ我關東都督府カ、幾多専門ノ士ヲ派シテ多年滿蒙ヲ踏査研究セラレタルモノニシテ、地理、歴史、宗教、産業、人情、風俗ヨリ其他有ラユル方面ニ亘リテ精ヲ盡クシ密ヲ極メ、其記事ノ正確ニシテ内容ノ豊富ナル、恐ラク全蒙古ヲ一本ニ網羅シ得タルモノ本書ノ右ニ出ツルモノナシ、今ヤ日支交渉解決ヲ見ルノ時、允許ヲ得テ之ヲ世ニ公ニスルニ至レリ、政治家、經濟家以テ讀ムヘシ、軍人、志士以テ繙クベキ最良書ナリ。

發行所 東京 東區 平河町 四丁目 宮本武林堂

講兵會編纂

日獨露佛 四國戰鬪原則對照

體裁菊版洋布製 價八拾五錢

本書「講兵」指導諸官ガ、既往一年有半ニ於ルケ間、研究諸氏ノ提出ニ係ル答解作業ニ就テ、原理原則ノ理解應用上ニ於テ大ニ感ル所アリ、百方考慮ノ末此缺陷ヲ補フベ、公務多端ノ間幾多ノ苦心ト熱誠ヲ籠テ、四ヶ國ニ於ルケ或ハ操典、或ハ戰術學教程、或ハ戰術教科書、或ハ戰鬪教令中其粹ヲ拔キ、之ヲ各原則毎ニ類集對照モラレタル寔ニ戰術研究上全ク得難キ寶章ナ。切ニ諸公ノ座右ニ勸ム。

發行所 東京市東區平河町一〇九番地 本武林堂

陸軍歩兵少佐川崎良三郎殿編 各國機關銃研究書抄譯

機關銃ノ技術及戰術的評論

附各國機關銃兵備ノ情勢

價壹圓參拾錢 郵稅內地八錢 外地十二錢 製本洋布製 挿入銃畫貳拾九箇

本書ハ編者ガ獨逸駐在中ノ經驗ニ基キ列國陸軍省ニ於テ爲セル最緊要ナル實驗並諸大家評論ノ抄譯ニ最新ノ情勢ヲ加味シタルモノナリ本堂請フテ許諾ヲ得我軍事界斯銃ノ研究ニ一大炬火ヲ提供スルノ光榮ヲ荷ヘリ切ニ乞フ大方ノ諸公此福音ヲ等閑ニ附シ去ルナカランコトヲ

目次

「ベリ」機關銃
携帶(小銃形)「ボツチキス」機關銃
「オトコレック」機關銃
機關銃ノ防音器
獨逸機關銃馬ノ駄載
機關銃ノ裝甲自働車
平時演習ニ於ケル機關銃ノ假裝射擊裝置
諸國機關銃ノ消息

獨逸國、奧地利國、佛蘭西國、露西亞國、英吉利國、瑞西國、伊太利國、合衆國、西班牙國、葡萄牙國、アルガリヤ國、土耳其國、セルビヤ國、モンテネグロ國、白耳義國、和蘭國、瑞典國、諾威國、丁抹國、伯利利國
機關銃ノ技術及戰術ニ就キテ——機關銃ノ戰術的使用
機關銃ノ征服(手榴彈、榴彈銃、白砲)
機關銃ニ對スル獨逸騎兵ノ動作並騎砲

兵及機關銃ト連合セル騎兵戰鬪
機關銃ト連合セル獨逸騎兵ノ動作並騎砲兵及機關銃ト連合セル騎兵戰鬪
機關銃ト連合セル獨逸歩兵戰鬪並敵ノ機關銃ニ對スル戰鬪
獨逸國ノ機關銃使用
佛國機關銃使用ニ關スル教範
歐戰運搬及緊要機關銃
裝備ヲ異ニセル機關銃隊形ノ性質比較
結言

發行所 東京市東區平河町一〇九番地 本武林堂

同志會編著

新舊對照 陣中要務令改正要領

全二册

體裁二段組菊版
價二册金九拾五錢
郵稅 內地八錢
外地十二錢

陣中要務令ノ野外要務令ニ對テ如何ニ改訂革新セラレタ
研究ハスル吾人刻下ノ最大急務テシテ而モ其之ガ研究ニ新舊ヲ
對照ハスル最善最良ノ方法テシテ亦腦裏ニ銘記コト一層確實モノ
ト而テ本著者ガ最モ苦心ト注意ヲ拂フテ三段論法的ニ先ヅ改
正ノ眼目次ニ各篇中改正ノ主要點終リ全條項ノ對照研
究ヲ詳述ルシタ所謂簡リ繁ニ入り最モ理解ヲ容易ムベク勉メタ而
所說適確對照正當本著ヲ一讀セルハ於テ蓋シ逐一讀者ノ
肯綮ニ中リ改正ノ意義ハ釋然トシ忽チ氷解シスベ速ニ購讀コトヲ
切ニ冀フ。

發行所 東京東區平河町四丁目二番宮本武林堂

講兵會編輯

(第三卷 每月一回發行 每號拾貳錢。半年六拾五錢。一年壹圓貳拾錢)

講 兵

第一卷(十二册合本)

第二卷(十二册合本)

製本 洋布製
價各卷壹圓四拾錢
郵稅各卷 內地十二錢
外地三十錢

本書ハ前後二十四ヶ月ニ涉リ甲想定ハ熊本及久
留米一帶ノ地方、乙想定ハ伊丹及茨木ヲ中心トス
ル地方ニ於テ變化窮マリナキ攻防ノ術ヲ支隊ヲ用
中圖上ニ於テ論難研鑽シタルモノニシテ又問々難
解若ハ誤解シ易キ原則ノ解説及有益ナル質議ノ應
答ヲ掲載セリ應用戰術研究ノ爲メ絶好ノ資料ナリ
トス

發行所 東京東區平河町四丁目二番宮本武林堂

T 氏 著

步兵中隊戰鬪教練

菊判洋布製
價 六拾錢
郵稅 八錢

內 容

總論—中隊戰鬪教練ノ根本義—計畫—計畫ノ素因。計畫ト實施ノ關係。教育量。使用時日。地形。空包。想定……—實施(指導法。教練ノ活氣。射擊指揮。援隊)—講評—計畫實施ノ範例—結論—附表(中隊戰鬪教練ニ於テ教育スヘキ事項。第二期中隊戰鬪教練教育計畫表。同上細目教育計畫表)—引用附圖(青山、代々木練兵場五千分ノ一圖)

本書ハ教育家トシテ。戰術家トシテ。射擊家トシテ。且ツハ所謂精神家トシテ常ニ世人ノ。而シテ軍隊ノ模範テウ名聲ヲ恣ニセシT氏ノ著ニ係ル權威アル罕觀ノ一書ナリ。其說ク所ノモノ。中隊戰鬪教練ノ根本主義ヨリ其實施計畫ノ細目ニ至ル迄順ヲ逐ヒ序ヲ尋ネ幾多ノ實驗ト統計トニ鑑ミ。解シ易ク且ツ直ニ實施シ得ル如ク懇篤細說到ラサルナシ。正ニ是レ大正現代ノ軍隊教育ニ向テ最モ大ナル光明タルト共ニ最モ新ラシキ指針タラスンハアラス。由來中隊教練ニ關スル著書尠シトセサルモ本書ノ如キハ蓋シ空前ト言フヲ憚ラス。是レ敢テ世ノ中隊教育ニ任スル各官ハ勿論中隊以上乃至中隊以下ノ教育ニ參スル諸官ノ爲ニ座右ノ珍トシテ特ニ推獎スル所ナリ。

發行所 東京 東區 平河町 四丁目 二番 宮本武林堂

NS 中隊長編述

實際的內務班長ノ著眼

四六版(研究用式)
價 貳拾五錢
途料 四錢

緒言 班員ノ儀表 上等兵ノ指導 古參兵ト新參兵 言語動作
兵卒身上調査 品 支給品ノ破損紛失 家族及本人ノ犯罪 修繕品ノ取扱 體質及氣質
兵器尊重 班內ノ清潔及諸物品ノ裝置整頓 火災 豫防 命 令 傳 達 衛 被服ノ保存
盜難 豫防 班長ノ日行事務基準 結 論 被服保存手入法 衛生
附 錄 三八式歩兵銃ノ保存及手入法

本書ハ非常ニ重大ニシテ困難ナルト共ニ、一面ニ於テハ興味甚深ナル內務班長ノ職務ノ施行ニ精細ナル準據ヲ與ヘ、以テ善良ナル效果ヲ收得セシムヘク 理想的某模範中隊ニ於テ、實施セラレツ、在ル事項ヲ秩序的ニ記述シタルモノニシテ、理想ニアラス空想ニアラス、乃チ一言トシテ實際ナラサルハナシ、寔ニ中隊附將校ノ爲メ最良ノ教育資料ナリ。

發行所 東京 東區 平河町 四丁目 二番 宮本武林堂

玄々居士編著

野外陣中要務問答

携帶至便
製本洋布製
價參拾五錢
郵稅貳錢

『陣中要務令』ハ、上ハ高級指揮官ヨリ下ハ下士卒ニ至ル各階級ニ必要ナル勤務法ヲ規定セルモノニシテ、初級幹部ノ直接其職務ヲ盡スニ緊要ナル事項ハ寧ロ甚タ多カラスト雖モ、其活用ノ範圍ハ極メテ大ナリ。

本書ハ即チ初級幹部ノ爲ニ直接須要ナル事項ヲ拔萃シ、且ツ應用例ヲ舉ケテ本令ノ精神ヲ理解スルニ便ニシ、殊ニ問答體ト爲シテ自習ノ用ニ供シタルモノナレハ、初級士官各位ノ教授用トシテ無二ノ參考書タリ。

發行所 東京 麹町 區 平河町 四丁目 宮本武林堂

319
356

終

